

**ROG CROSSHAIR
VIII IMPACT**

ASUS[®]

Motherboard

J15818
改訂版 V2
2019年8月

Copyright © 2019 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。購入者によるバックアップ目的の場合を除き、ASUSTeK Computer Inc. (以下、ASUS) の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

以下に該当する場合は、製品保証サービスを受けることができません。

(1) 製品に対しASUSの書面により認定された以外の修理、改造、改変が行われた場合

(2) 製品のシリアル番号の確認ができない場合

本書は情報提供のみを目的としています。本書の情報の完全性および正確性については最善の努力が払われていますが、本書の内容は「現状のまま」で提供されるものであり、ASUSは明示または黙示を問わず、本書においていかなる保証も行いません。ASUS、その提携会社、従業員、取締役、役員、代理店、ベンダーまたはサプライヤーは、本製品の使用または使用不能から生じた付随的な損害（データの変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に対して、たとえASUSがその損害の可能性について知らされていた場合も、一切責任を負いません。

本書に記載している会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。本書では説明の便宜のためにその会社名、製品名などを記載する場合がありますが、それらの商標権の侵害を行う意思、目的はありません。

Offer to Provide Source Code of Certain Software

This product contains copyrighted software that is licensed under the General Public License ("GPL"), under the Lesser General Public License Version ("LGPL") and/or other Free Open Source Software Licenses. Such software in this product is distributed without any warranty to the extent permitted by the applicable law. Copies of these licenses are included in this product.

Where the applicable license entitles you to the source code of such software and/or other additional data, you may obtain it for a period of three years after our last shipment of the product, either

(1) for free by downloading it from <https://www.asus.com/support/>

or

(2) for the cost of reproduction and shipment, which is dependent on the preferred carrier and the location where you want to have it shipped to, by sending a request to:

ASUSTeK Computer Inc.
Legal Compliance Dept.
15 Li Te Rd.
Beitou, Taipei 112
Taiwan

In your request please provide the name, model number and version, as stated in the About Box of the product for which you wish to obtain the corresponding source code and your contact details so that we can coordinate the terms and cost of shipment with you.

The source code will be distributed WITHOUT ANY WARRANTY and licensed under the same license as the corresponding binary/object code.

This offer is valid to anyone in receipt of this information.

ASUSTeK is eager to duly provide complete source code as required under various Free Open Source Software licenses. If however you encounter any problems in obtaining the full corresponding source code we would be much obliged if you give us a notification to the email address gpl@asus.com, stating the product and describing the problem (please DO NOT send large attachments such as source code archives, etc. to this email address).

もくじ

安全上のご注意	vi
このマニュアルについて	vii
ROG CROSSHAIR VIII IMPACT 仕様一覧	ix
パッケージの内容	xv
取り付け工具とコンポーネント	xvi

Chapter 1: 製品の概要

1.1	始める前に	1-1
1.2	マザーボードのレイアウト	1-2
1.3	プロセッサ	1-4
1.4	システムメモリ	1-5
1.5	拡張スロット	1-7
1.6	オンボードボタン	1-9
1.7	オンボードスイッチ	1-12
1.8	オンボードジャンパー	1-12
1.9	オンボードLED	1-13
1.10	内部コネクタ	1-15

Chapter 2: 基本的な取り付け

2.1	コンピューターを組み立てる	2-1
2.1.1	CPUを取り付ける	2-1
2.1.2	CPUクーラーを取り付ける	2-2
2.1.3	マザーボードを取り付ける	2-5
2.1.4	メモリーを取り付ける	2-6
2.1.5	ATX 電源を取り付ける	2-7
2.1.6	SATAデバイスを取り付ける	2-7
2.1.7	フロント I/O コネクタを取り付ける	2-8
2.1.8	拡張カードを取り付ける	2-9
2.1.9	M.2 SSD を取り付ける	2-10
2.1.10	付属のアンテナを取り付ける	2-12
2.2	UEFI BIOSを更新する	2-13
2.3	バックパネルとオーディオ接続	2-14
2.3.1	バックパネルコネクタ	2-14
2.3.2	オーディオ I/O 接続	2-16
2.4	初めて起動する	2-18
2.5	システムの電源をオフにする	2-18

Chapter 3: UEFI BIOS設定

3.1	UEFIとは	3-1
3.2	UEFI BIOS Utility	3-2
3.2.1	Advanced Mode.....	3-3
3.2.2	EZ Mode	3-6
3.2.3	Q-Fan Control.....	3-7
3.2.4	EZ Tuning Wizard	3-9
3.3	My Favorites	3-11
3.4	Main	3-13
3.5	Extreme Tweaker	3-13
3.6	Advanced	3-14
3.6.1	AMD fTPM configuration.....	3-14
3.6.2	CPU Configuration	3-15
3.6.3	SATA Configuration	3-15
3.6.4	Onboard Devices Configuration.....	3-16
3.6.5	APM Configuration	3-18
3.6.6	PCI Subsystem Settings.....	3-18
3.6.7	USB Configuration.....	3-19
3.6.8	HDD/SSD SMART Information	3-19
3.6.9	NVMe Configuration	3-19
3.6.10	Network Stack Configuration	3-19
3.7	Monitor	3-20
3.8	Boot	3-21
3.9	Tool	3-22
3.9.1	ASUS EZ Flash 3 Utility.....	3-22
3.9.2	Secure Erase	3-23
3.9.3	ASUS User profile.....	3-24
3.9.4	ASUS SPD Information.....	3-24
3.9.5	Graphics Card Information	3-24
3.9.6	ASUS Armoury Crate	3-25
3.10	Exit	3-25
3.11	UEFI BIOSの更新	3-26
3.11.1	EZ Update	3-26
3.11.2	ASUS EZ Flash 3 Utility.....	3-27
3.11.3	ASUS CrashFree BIOS 3.....	3-29

Chapter 4: RAID

4.1	RAID設定	4-1
4.1.1	RAID定義	4-1

Chapter 5: 付録

Q-Code 表	5-1
Notices	5-5
ASUSコンタクトインフォメーション	5-11

安全上のご注意

電気の取り扱い

- ・ 本製品、周辺機器、ケーブルなどの取り付けや取り外しを行う際は、必ずコンピューターと周辺機器の電源ケーブルをコンセントから抜いて行ってください。お客様の取り付け方法に問題があった場合の故障や破損に関して弊社は一切の責任を負いません。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプターを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、回路のショート等の原因になる場合があります。
- ・ ご使用の電源装置に電圧選択スイッチが付いている場合は、システムの損傷を防ぐために電源装置の電圧選択スイッチがご利用の地域の電圧と合致しているかをご確認ください。ご利用になる地域の電圧が不明な場合は、各地域の電力会社にお問い合わせください。
- ・ 電源装置が故障した場合はご自分で修理・分解をせず、各メーカーや販売店にご相談ください。
- ・ 光デジタルS/PDIFは、光デジタルコンポーネントで、クラス1レーザー製品に分類されています。(本機能の搭載・非搭載は製品仕様によって異なります)



不可視レーザー光です。ビームを直接見たり触れたりしないでください。

操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本パッケージに付属のマニュアル及び取り付ける部品のマニュアルを全て熟読してください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源ケーブルに損傷がないことを確認してください。
- ・ 各コネクタ及びスロット、ソケット、回路にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。電源回路のショート等の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。火災や感電、やけど、故障の原因となります。修理は弊社修理センターまたは販売代理店にご依頼ください。
- ・ 周辺温度0~40°C以外では使用しないでください。火災の原因となります。

回収とリサイクルについて

使用済みのコンピューター、ノートPC等の電子機器には、環境に悪影響を与える有害物質が含まれており、通常のゴミとして廃棄することはできません。リサイクルによって、使用済みの製品に使用されている金属部品、プラスチック部品、各コンポーネントは粉碎され新しい製品に再使用されます。また、その他のコンポーネントや部品、物質も正しく処分・処理されることで、有害物質の拡散の防止となり、環境を保護することに繋がります。

ASUSは各国の環境法等を満たし、またリサイクル従事者の作業の安全を図るよう、環境保護に関する厳しい基準を設定しております。ASUSのリサイクルに対する姿勢は、多方面において環境保護に大きく貢献しています。



本機は電気製品または電子装置であり、地域のゴミと一緒に捨てられません。また、本機のコンポーネントはリサイクル性を考慮した設計を採用しております。なお、廃棄の際は地域の条例等の指示に従ってください。



本機に装着されているボタン型電池には水銀が含まれています。通常ゴミとして廃棄しないでください。

このマニュアルについて

このマニュアルには、マザーボードの取り付けやシステム構築の際に必要な情報が記してあります。

マニュアルの概要

本書は以下のChapter から構成されています。

- **Chapter 1: 製品の概要**
マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明、及び各部位の説明。
- **Chapter 2: 基本的な取り付け**
コンピューターの組み立て方、バックパネルについての説明。
- **Chapter 3: UEFI BIOS 設定**
UEFI BIOS Utilityでのシステム設定の変更方法とパラメータの詳細。
- **Chapter 4: RAID**
RAID 設定についての説明。
- **Chapter 5: 付録**
製品の規格や海外の法令についての説明。

参考情報

1. ASUS公式サイト(<http://www.asus.com/>)

多言語に対応した弊社ウェブページで、製品のアップデート情報やサポート情報をご確認いただけます。

2. 追加ドキュメント

パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

ドライバーとユーティリティのダウンロード

ASUS公式サイトから、最新のドライバーやユーティリティをダウンロードすることができます。

1. ASUS公式サイト (<http://www.asus.com>) にアクセスします。
2. お使いの製品のページに移動します。
3. [サポート]-[ドライバーとツール]の順にクリックします。
4. お使いのOSを選択し、内容をよく読んでご利用になるドライバーやユーティリティをダウンロードします。

このマニュアルの表記について

本書には、製品を安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止していただくために、守っていただきたい事項が記載されています。次の内容をよくご理解いただいた上で本文をお読みください。



警告: 作業人が死亡する、または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。



重要: 作業を完了するために必要な指示や設定方法を記載しています。



メモ: 製品を使いやすくするための情報や補足の説明を記載しています。

表記

太字

選択するメニューや項目を表示します。

<Key>

<>で囲った文字は、キーボードのキーです。

例: <Enter>→Enter もしくはリターンキーを押してください。

<Key1+Key2+Key3>

1度に2つ以上のキーを押す必要がある場合は(+)を使って示しています。

例: <Ctrl+Alt+Del>



- 本書に記載している画面は一例です。画面の背景、画面デザイン、表示される項目名、アイコンなどの種類や位置などが実際の画面と異なる場合があります。
- 本書は、本書作成時のソフトウェアおよびハードウェアの情報に基づき作成されています。ソフトウェアのバージョンアップなどにより、記載内容とソフトウェアに搭載されている機能および名称が異なる場合があります。また、本書の内容は、製品やサービスの仕様変更などにより将来予告なく変更することがあります。
- 本書、本製品では原則としてAMDプロセッサ、AMD Accelerated Processing Unit (AMD APU) をすべてCPUと表記しています。

ROG CROSSHAIR VIII IMPACT 仕様一覧

対応CPU	Socket AM4: - 第3世代/第2世代 AMD Ryzen™ プロセッサ - 第2世代/第1世代 Radeon™ Vega グラフィックス搭載 AMD Ryzen™ プロセッサ * 最新の対応状況について、詳しくはASUSオフィシャルサイトをご覧ください。
搭載チップセット	AMD X570 チップセット
対応メモリー	DDR4 スロット×2: 最大 64GB / デュアルチャンネルサポート 第3世代 AMD Ryzen™ プロセッサ DDR4 4800+(O.C.) / 4600(O.C.) / 4533(O.C.) / 4400(O.C.) / 4266(O.C.) / 4133(O.C.) / 4000(O.C.) / 3866(O.C.) / 3733(O.C.) / 3600(O.C.) / 3466(O.C.) / 3400(O.C.) / 3200 / 3000 / 2933 / 2800 / 2666 / 2400 / 2133 MHz、Non-ECC、Un-buffered DIMM 対応 第2世代 AMD Ryzen™ プロセッサ DDR4 3600(O.C.) / 3466(O.C.) / 3400(O.C.) / 3200(O.C.) / 3000(O.C.) / 2933 / 2800 / 2666 / 2400 / 2133 MHz、Non-ECC、Un-buffered DIMM 対応 第2世代/第1世代 Radeon™ Vega グラフィックス搭載AMD Ryzen™ プロセッサ DDR4 3200(O.C.) / 3000(O.C.) / 2933 / 2800 / 2666 / 2400 / 2133 MHz、Non-ECC、Un-buffered DIMM 対応 Double Capacity メモリー対応 * 対応するメモリーの動作速度や枚数は搭載するプロセッサにより異なります。詳しくはASUSオフィシャルサイトのQVLをご確認ください。
拡張スロット	第3世代 AMD Ryzen™ プロセッサ - PCI Express 4.0 x16 スロット ×1 第2世代 AMD Ryzen™ プロセッサ - PCI Express 3.0 x16 スロット ×1 第2世代/第1世代 Radeon™ Vega グラフィックス搭載AMD Ryzen™ プロセッサ - PCI Express 3.0 x16 スロット ×1 (最大 x8 動作)

ROG CROSSHAIR VIII IMPACT 仕様一覧

<p>ストレージ機能</p>	<p>第3世代 AMD Ryzen™ プロセッサ - M.2 Socket 3 スロット×1 Key M, Type 2242/2260/2280, SATA / PCI Express 4.0 x4 接続対応</p> <p>第2世代 AMD Ryzen™ プロセッサ 第2世代/第1世代 Radeon™ Vega グラフィックス搭載AMD Ryzen™ プロセッサ - M.2 Socket 3 スロット×1 Key M, Type 2242/2260/2280, SATA / PCI Express 3.0 x4 接続対応</p> <p>AMD X570 チップセット - SATA 6Gb/s ポート×4 - RAID 0 / 1 / 10 サポート - M.2 Socket 3 スロット×1 Key M, Type 2242/2260/2280, SATA / PCI Express 4.0 x4 接続対応</p> <p>* M.2 Socket 3 スロットを使用するには、SO-DIMM.2 スロットに ROG SO-DIMM.2 カードの取り付けが必要です。</p>
<p>LAN機能</p>	<p>Intel® Ethernet Controller I211-AT Anti-surge LANGuard ROG GameFirst</p>
<p>無線データネットワーク</p>	<p>Intel® Wi-Fi 6 AX200 2 x 2 Wi-Fi 6 (IEEE802.11a/b/g/n/ac/ax) デュアルバンド (2.4GHz/5GHz) 対応 HT20/HT40/HT80/HT160 サポート MU-MIMO対応 最大転送速度 2.4Gbps (理論値)</p>
<p>Bluetooth® 機能</p>	<p>Bluetooth® 5.0 * 対応するバージョンやプロファイルはご使用のOSに準じます。</p>
<p>オーディオ機能</p>	<p>ROG SupremeFX - 7.1 チャンネル HD オーディオコーデック S1220 - 最高192kHz/32bitのハイレゾ音源の再生に対応* - SN比: 120dBのステレオライン出力とSN比: 113dBのライン入力をサポート - ヘッドホン出力インピーダンス検出機能 - ESSテクノロジー社製オーディオDAC ES9023P - SupremeFX Shielding Technology - ジャック検出、マルチストリーミング、フロントパネル・ジャックリタスキング - 光デジタルS/PDIF出力ポート (バックパネル)</p> <p>オーディオ機能 - Sonic Radar III - Sonic Studio III + Sonic Studio Virtual Mixer</p> <p>* HD Audio規格の192kHz/32bitまでのデータストリーム、96kHz/32bitでの8チャンネルサラウンドに対応。</p>

ROG CROSSHAIR VIII IMPACT 仕様一覧

USB機能	<p>第3世代 AMD Ryzen™ プロセッサー</p> <ul style="list-style-type: none">- USB 3.2 Gen 2 ポート×2 (バックパネル)- USB 3.2 Gen 1 ポート×2 (バックパネル) <p>第2世代 AMD Ryzen™ プロセッサー</p> <p>第2世代/第1世代 Radeon™ Vega グラフィックス搭載AMD Ryzen™ プロセッサー</p> <ul style="list-style-type: none">- USB 3.2 Gen 1 ポート×4 (バックパネル) <p>AMD X570 チップセット</p> <ul style="list-style-type: none">- USB 3.2 Gen 2 コネクタ×1- USB 3.2 Gen 2 ポート×3 (バックパネル)- USB Type-C™ with USB 3.2 Gen 2 ポート×1 (バックパネル)- USB 3.2 Gen 1 コネクタ×1- USB 2.0 コネクタ×1
特殊機能	<p>Extreme Engine Digi+</p> <ul style="list-style-type: none">- MicroFine Alloy Choke- Infineon TDA21472 Power Stage MOSFET- 10Kブラックメタリックコンデンサー <p>ROG Extreme OC キット</p> <ul style="list-style-type: none">- Safe Boot ボタン- Slow Mode- LN2 Mode- OptiMem III <p>Extreme Tweaker</p> <p>ROGソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none">- RAMCache III- ROG RAMDisk- CPU-Z- GameFirst V- Sonic Studio III + Sonic Studio Virtual Mixer- Sonic Radar III

ROG CROSSHAIR VIII IMPACT 仕様一覧

<p>搭載機能</p>	<p>ASUS 独自ソフトウェア機能</p> <ul style="list-style-type: none">- Armoury Crate- AURA- ASUS Dual Intelligent Processors 5<ul style="list-style-type: none">- 5-Way Optimization : ワンクリックでPCを最適化- AI Suite 3- ASUS EZ DIY<ul style="list-style-type: none">- ASUS CrashFree BIOS 3- ASUS EZ Flash 3- ASUS C.P.R. (CPU Parameter Recall)- Ai Charger <p>ASUS 独自ハードウェア機能</p> <ul style="list-style-type: none">- マザーボード一体型 I/O シールド- ASUS NODE: ハードウェア制御インターフェース- USB BIOS Flashback™ ボタン- CMOSクリアボタン- 電源ボタン- リセットボタン- ReTry ボタン <p>ASUS Q-Design</p> <ul style="list-style-type: none">- Q-Code- Q-Slot- Q-LED- Q-DIMM
<p>バックパネル インターフェース</p>	<p>CMOSクリアボタン×1 USB BIOS Flashback™ ボタン×1 Q-Code ×1 リセットボタン×1 無線通信用アンテナポート×2 USB 3.2 Gen 2 ポート×5 * USB Type-C™ with USB 3.2 Gen 2 ポート×1 LANポート×1 光デジタル S/PDIF 出力ポート×1 オーディオ I/O ポート×3</p> <p>* 対応する規格は搭載するプロセッサにより異なります。</p>

ROG CROSSHAIR VIII IMPACT 仕様一覧

基板上 インターフェース

USB 2.0 コネクタ×1
USB 3.2 Gen 2 コネクタ×1
USB 3.2 Gen 1 コネクタ×1
NODE コネクタ×1
SATA 6Gb/s ポート×4
SO-DIMM.2 スロット×1
M.2 Socket 3 スロット×2*
4ピン CPUファンコネクタ×1
4ピン ケースファンコネクタ×1
4ピン ウォーターポンプ+ コネクタ×1
4ピン ラジエーターファンコネクタ×2*
3ピン 水流量 コネクタ×1
2ピン 水流IN コネクタ×1
2ピン 水流OUT コネクタ×1
温度センサーコネクタ×1
24ピン MBU 電源 コネクタ×1
8ピン EPS 12V 電源 コネクタ×1
電源ボタン×1
Safe Boot ボタン×1
ReTry ボタン×1
LN2 Mode ジャンパー×1
Slow Mode スイッチ×1
システムパネルコネクタ×1
フロントパネルオーディオコネクタ×1**
第2世代 アドレスラブルヘッダー×2*
RGB ヘッダー×1

* M.2 Socket 3 スロット、4ピンラジエーターファンコネクタ、第2世代アドレスラブルヘッダーの一部は、ROG SO-DIMM.2 カード上に配置されています。

** フロントパネルオーディオコネクタは、SUPREMEFX IMPACT IV オーディオカード上に配置されています。

ROG CROSSHAIR VIII IMPACT 仕様一覧

BIOS機能	256 Mb Flash ROM、UEFI AMI BIOS、PnP、WfM2.0、SM BIOS 3.2、ACPI 6.2
管理機能	WOL、PXE
サポートDVDの 主な内容	Overwolf WinRAR アンチウイルスソフトウェア (1年サブスクリプション版)
サポートOS	Windows® 10 (64-bit)
フォームファクター	Mini-DTX フォームファクター 20.3 cm×17 cm (8.0 インチ×6.7 インチ)



製品は性能・機能向上のために、仕様およびデザインを予告なく変更する場合があります。

パッケージの内容

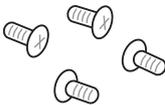
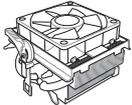
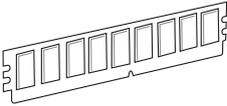
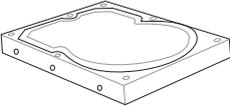
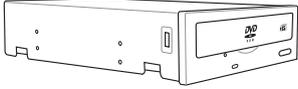
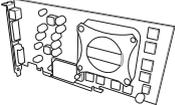
製品パッケージに以下のものが揃っていることを確認してください。

マザーボード	ROG CROSSHAIR VIII IMPACT
ケーブル	SATA 6 Gb/s ケーブル×4 アドレスابلヘッダー延長ケーブル×1 RGB ストリップ 延長ケーブル×1 システムパネルケーブル×1
アクセサリ	2T2R デュアルバンド対応Wi-Fi /Bluetoothアンテナ×1 ROG SO-DIMM.2 カード×1 M.2 固定用ネジ(ネジ・スペーサー)×2 ゴムパッド×2 (ROG SO-DIMM.2 カード用)
ディスク	サポートDVD
ドキュメント	ユーザーマニュアル
その他	ROG コースター×1 ROG ステッカー×1 ROG Thank you カード×1



- 万一、付属品が足りない場合や破損していた場合は、すぐにご購入元にお申し出ください。
- 本マニュアルで使用されているイラストや画面は実際とは異なる場合があります。予めご了承ください。

取り付け工具とコンポーネント

	
各種取付用ネジ	プラスドライバー
	
PC ケース	電源ユニット
	
AMD Socket AM4 CPU	AMD Socket AM4 対応 CPUクーラー
	
DDR4 SDRAMメモリー	ストレージドライブ
	
SATA 光学ドライブ (必要に応じて)	グラフィックスカード



上記の工具とコンポーネントはマザーボードのパッケージには同梱されていません。

製品の概要

1

1.1 始める前に

パーツの取り付けや設定変更の際は、次の事項に注意してください。

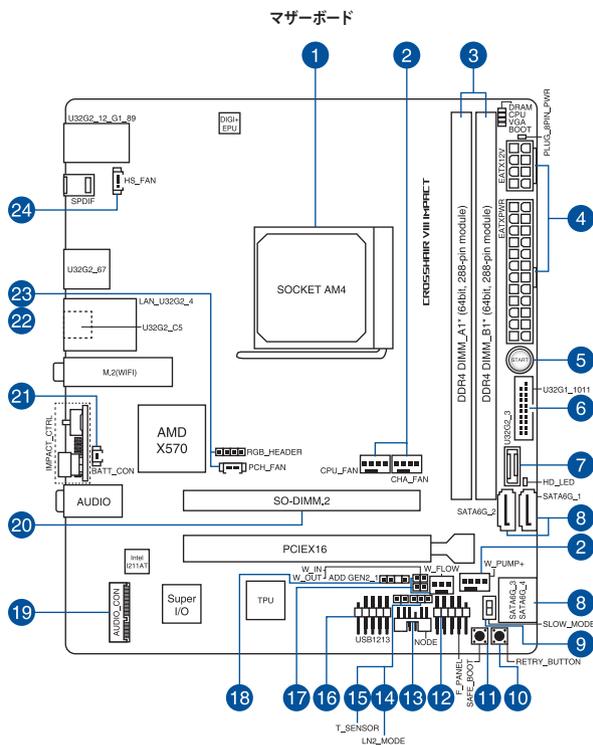


本書に記載されている機能を使用するためには、別途パーツのご購入が必要な場合があります。

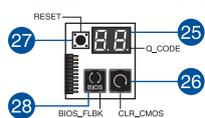


- 各パーツを取り扱う前に、コンセントから電源ケーブルを抜いてください。
- 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
- IC部分には絶対に手を触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
- 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置るか、コンポーネントに付属する袋に入れてください。
- パーツの取り付け、取り外しを行う前に、電源ユニットのスイッチをオフにし、電源ケーブルが電源から抜かれていることを確認してください。電力が供給された状態での作業は、感電、故障の原因となります。

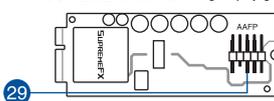
1.2 マザーボードのレイアウト



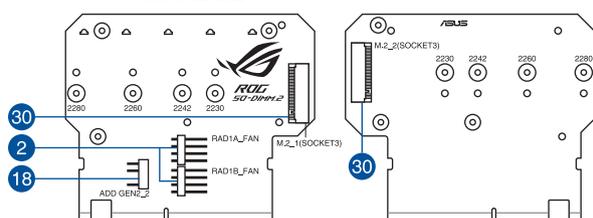
IMPACT コントロールカード



SUPREMEFX IMPACT IV オーディオカード



ROG SO-DIMM.2 カード

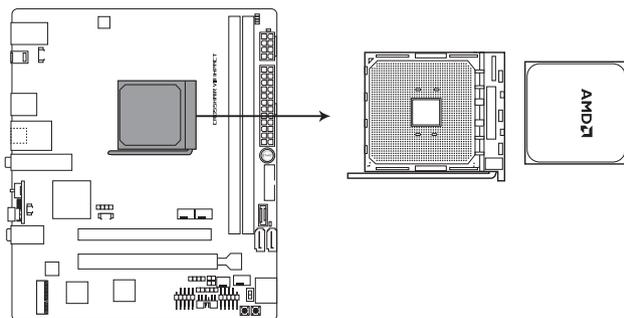


内部コネクタの詳細については「内部コネクタ」を、バックパネルコネクタの詳細については「バックパネルコネクタ」をご参照ください。

レイアウトの内容	ページ
1. CPUソケット	1-4
2. ファン/ポンプコネクタ	1-21
3. DDR4 DIMM スロット	1-5
4. 電源コネクタ	1-23
5. 電源ボタン	1-9
6. USB 3.2 Gen 1 コネクタ	1-19
7. USB 3.2 Gen 2 コネクタ	1-19
8. SATA 6Gb/s コネクタ	1-15
9. Slow Mode スイッチ	1-12
10. ReTry ボタン	1-10
11. Safe Boot ボタン	1-10
12. システムパネルコネクタ	1-24
13. NODEコネクタ	1-28
14. LN2 Mode ジャンパー	1-12
15. 温度センサーコネクタ	1-22
16. USB 2.0 コネクタ	1-20
17. 水冷システム用コネクタ	1-22
18. 第2世代 アドレスラベルヘッダー	1-26
19. SUPREMEFX IMPACT IV オーディオコネクタ	1-18
20. SO-DIMM.2 スロット	1-16
21. RTC バッテリーヘッダー	1-28
22. PCH ファンコネクタ	1-27
23. RGB ヘッダー	1-25
24. HS ファンコネクタ	1-27
25. Q-Code LED	1-14
26. CMOS クリアボタン	1-11
27. リセットボタン	1-9
28. USB BIOS Flashback™ ボタン	2-12
29. フロントパネルオーディオコネクタ	1-18
30. M.2 Socket 3 スロット	1-17

1.3 プロセッサー

本製品には、Socket AM4 が搭載されており、Socket AM4 プラットフォームの対応する CPU (Central Processing Unit) のみを取り付けることができます。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT CPU AM4



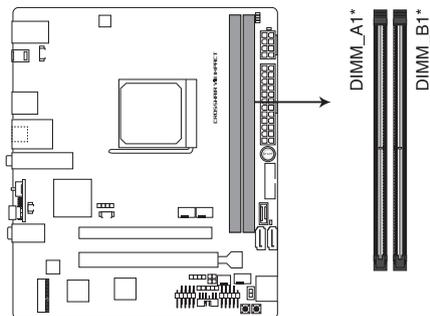
- 本製品の対応するCPUについて、詳しくはASUS公式サイトをご覧ください。
(<https://www.asus.com/>)
- CPUは取付方向が決まっています。取付方向を間違えないようにしてください。間違えて取り付けた場合、故障の原因となります。



CPUを取り付ける際は、必ず電源ケーブルをコンセントから抜いて行なってください。

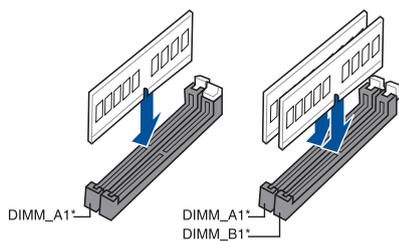
1.4 システムメモリー

本製品には、DDR4 メモリーに対応したDIMMスロットが2基搭載されています。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT 288-pin DDR4 DIMM socket

推奨メモリー構成



メモリー構成

本製品のメモリースロットには、4GB、8GB、16GB、32GBのDDR4 Non-ECC、Un-buffered DIMM を取り付けることができます。



- 異なる容量のメモリーをマルチチャンネル構成で取り付けられた場合、アクセス領域はメモリー容量の合計値が小さい方のチャンネルに合わせて割り当てられ、容量の大きなメモリーの超過分に関してはシングルチャンネル用に割り当てられます。
- CPUの仕様電圧範囲以上の高い電圧を必要とするメモリーを取り付けるとCPUが損傷することがあります。CPUの仕様上の制限を超過しないメモリーをご使用ください。
- 同じCASレイテンシを持つメモリーを取り付けてください。またメモリーは同じベンダーの同じ製造週の製品を取り付けることをお勧めします。
- 対応するメモリーの動作速度や枚数は搭載するプロセッサにより異なります。詳しくはASUSオフィシャルサイトのQVLをご確認ください。

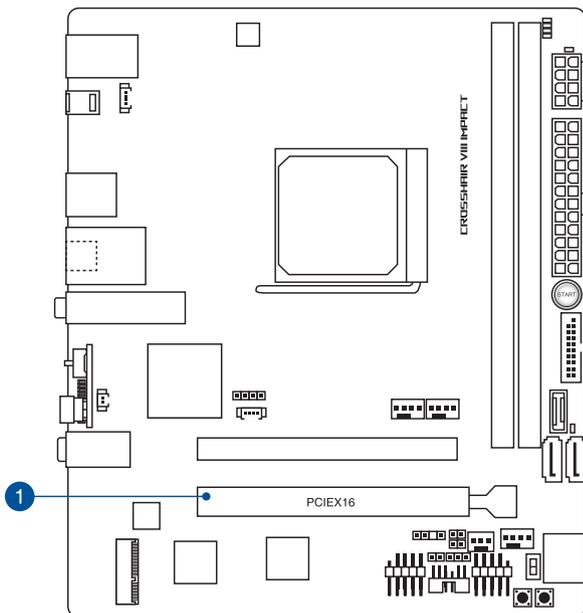


- メモリーの動作周波数はSerial Presence Detect (SPD) に依存しており、デフォルト設定では標準のSPD設定が優先されます。
- すべてのスロットにメモリーモジュールを取り付ける場合やオーバークロックを行う場合は、安定した動作のために適切な冷却システムをご使用ください。
- 最新の対応状況について、詳しくはASUSオフィシャルサイトをご覧ください。
(<http://www.asus.com>)

1.5 拡張スロット



拡張カードの追加や取り外しを行う際は、必ず電源をオフにし、電源ケーブルを抜いてから行なってください。電源ケーブルを接続したまま作業をすると、負傷やマザーボードコンポーネントの損傷の原因となります。



スロット No.	スロット名
1	PCIEX16

PCI Express 動作モード

第3世代 AMD Ryzen™ プロセッサ

スロット	動作モード
PCIEX16	x16 (PCIe 4.0)
M.2_1 (PCIe Mode)	x4 (PCIe 4.0)
M.2_1 (SATA Mode)	○
M.2_2 (PCIe Mode)	x4 (PCIe 4.0)
M.2_2 (SATA Mode)	○

第2世代 AMD Ryzen™ プロセッサ

スロット	動作モード
PCIEX16	x16 (PCIe 3.0)
M.2_1 (PCIe Mode)	x4 (PCIe 4.0)
M.2_1 (SATA Mode)	○
M.2_2 (PCIe Mode)	x4 (PCIe 3.0)
M.2_2 (SATA Mode)	○

第2世代/第1世代 Radeon™ Vegaグラフィックス搭載 AMD Ryzen™プロセッサ

スロット	動作モード
PCIEX16	x8 (PCIe 3.0)
M.2_1 (PCIe Mode)	x4 (PCIe 4.0)
M.2_1 (SATA Mode)	○
M.2_2 (PCIe Mode)	x4 (PCIe 3.0)
M.2_2 (SATA Mode)	○

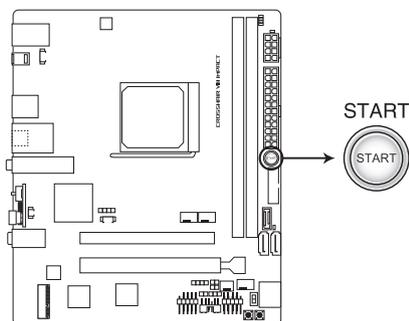


グラフィックスカードを使用する場合は、安全性及び信頼性を確保するためケースファンを設置することを推奨します。

1.6 オンボードボタン

1. 電源ボタン

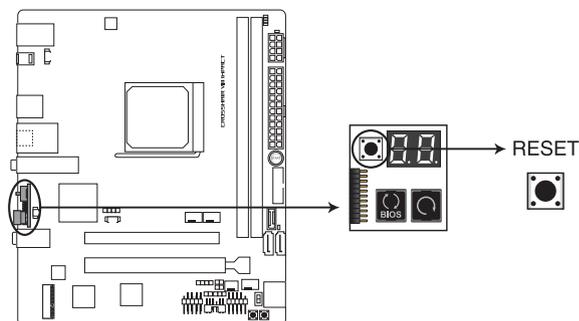
本製品には電源ボタンが搭載されており、別途電源ボタンを接続することなくシステムの電源をオンにすることができます。電源ボタンはシステムに電力が供給されている場合にも点灯します。拡張カードなどの取り付けや取り外しを行なう際は、電源ケーブルを抜くなどして電源ボタンが消灯した事を確認してから行ってください。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Power on button

2. リセットボタン

リセットボタンを押すと、システムは強制的に再起動が実行されます。保存されていない作業中のデータは削除されてしまいます。また、ストレージデバイスのアクセス中にリセットすると、故障やデータ破損の原因となる恐れがありますのでご注意ください。



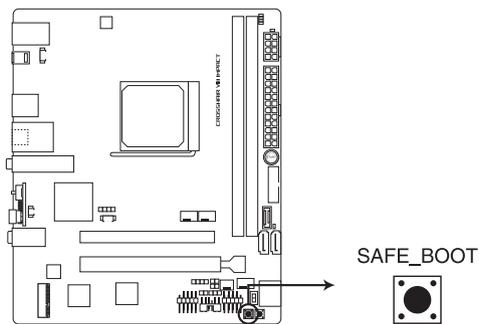
ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Reset button



リセットボタンはFlexkeyとして特定の機能を割り当てることができます。設定はUEFI BIOS Utilityで行います。

3. Safe Boot ボタン

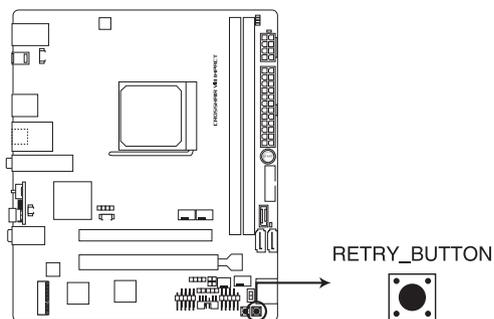
Safe Boot ボタンを押すことで、UEFI BIOSをセーフモードで起動させることができます。一時的に安全な設定をUEFI BIOSに適用してシステムを起動させることができ、CMOSクリアなどでUEFI BIOSの設定を初期化することなく起動失敗の原因となっている設定を調整することが可能です。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Safe Boot button

4. ReTry ボタン

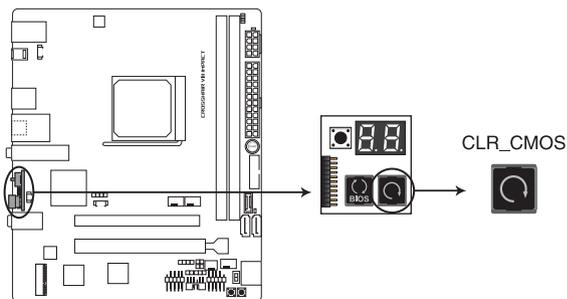
極度のオーバークロックや液体窒素などを用いた極冷環境ではリセットボタンでのシステム再起動や強制終了ができない場合に遭遇することがあります。通常このような問題が発生した場合は電源ユニットの電源ケーブルを抜くなどして電力供給を遮断してシステムを停止させなければなりません。ReTry ボタンはこの煩わしい作業からあなたを開放します。ReTry ボタンを押すことによりUEFI BIOSの設定を保持したままシステムを強制的に再起動することができます。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT ReTry button

5. CMOSクリアボタン

CMOS クリアボタン を押すことで、CMOSのリアルタイムクロック (RTC) RAMを消去することができます。CMOS RTC RAMを消去することにより、システム時計、システムパスワード、およびシステム設定パラメータをデフォルト状態に戻すことができます。

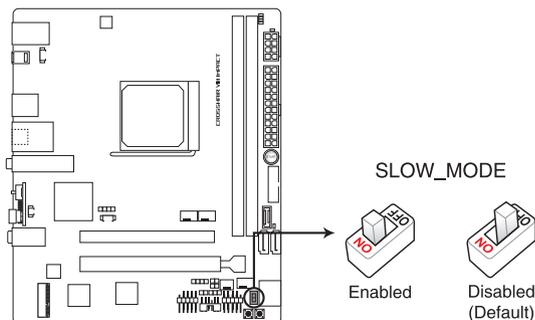


ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Clear CMOS button

1.7 オンボードスイッチ

1. Slow Mode スイッチ

Slow Mode スイッチは、液体窒素(LN2)などの極冷環境でのベンチマーク時に使用する機能です。プロセッサによっては高い周波数で動作することのできる温度範囲が非常に狭く、高い周波数で安定した動作を得るには緻密な温度管理が必要です。このSlow Mode スイッチを有効にすることで、プロセッサの動作倍率を一時的に最低倍率まで下げて負荷を低減させることで、プロセッサの発熱量を抑え時間を掛けて調整することが可能になります。また、Slow Mode スイッチを無効にすることによってCPUは設定された周波数に引き上げられます。Slow Mode スイッチを使用することによって、オーバークロック設定を行なった低温状態のシステムを起動する際に周波数と温度の同期がより簡単に行え、システムクラッシュの確率を大幅に下げることができます。

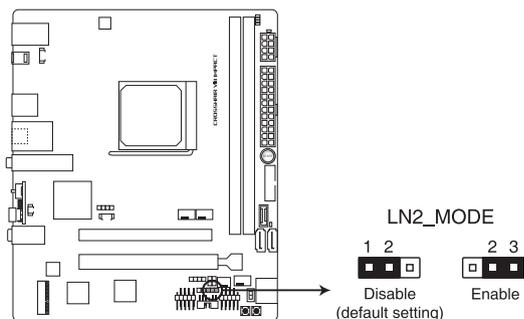


ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Slow Mode switch

1.8 オンボードジャンパー

1. LN2 Mode ジャンパー

LN2 Modeを有効に設定することで、極冷などの低温環境下で発生しやすいコールドバグを改善し、起動の確率を高めることができます。

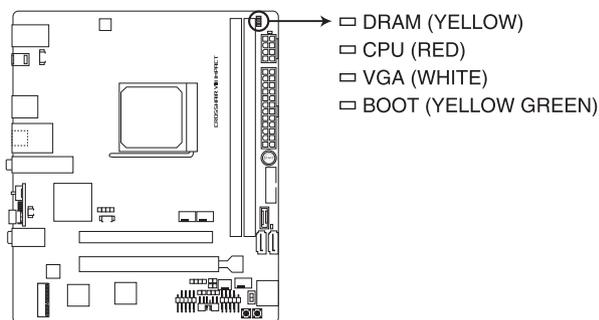


ROG CROSSHAIR VIII IMPACT LN2 Mode jumper

1.9 オンボードLED

1. Q-LED

システムは起動時にPOST (Power-on Self Test) と呼ばれる動作チェックを実行します。Q-LEDは重要なコンポーネント (CPU、メモリー、グラフィックスカード、起動デバイス) をPOST時にチェックし、エラーが検出されると該当箇所のLEDを点灯させ問題箇所を通知します。LEDが点灯している場合、システムは正常に動作することができます。Q-LEDは、素早く問題箇所を発見することができる非常に便利な機能です。



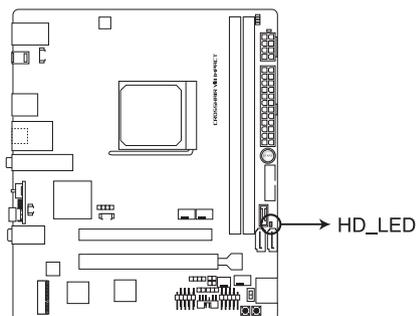
ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Q LEDs



Q-LEDはシステムの起動問題が発生している箇所の特定を補助するためのものであり、あらゆる状況での問題を正確に特定するものではありません。あくまでも目安としてご利用ください。

2. ストレージデバイスアクティビティLED

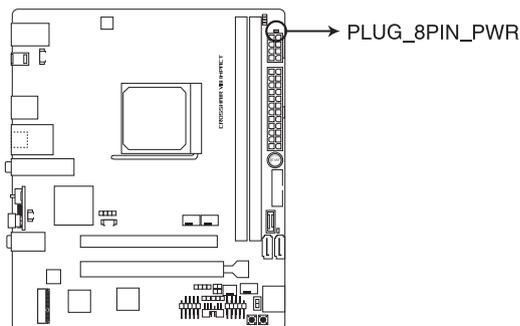
マザーボードに接続しているストレージドライブがデータの読み書きを行なっている状態の時に点灯または点滅します。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Storage Device Activity LED

3. 8ピン電源プラグLED

CPU用補助電源のための8ピン EPS 12V 電源コネクタ (EATX12V) の接続状態を検出し通知します。コネクタに補助電源プラグが正しく取り付けられていない場合、このLEDが点灯し警告を発します。



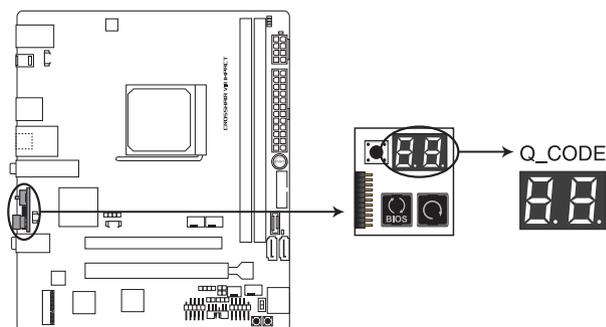
ROG CROSSHAIR VIII IMPACT 8-pin Power Plug LED



CPU補助電源は8ピン EPS 12V を接続してください。4ピン ATX12V 接続のみで使用すると、異常温度上昇などの原因になる恐れがあります。

4. Q-Code LED

Q-Code LEDは7セグメントLEDディスプレイによってPOSTコードを表示しシステムの起動状態を通知します。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Q-Code LED

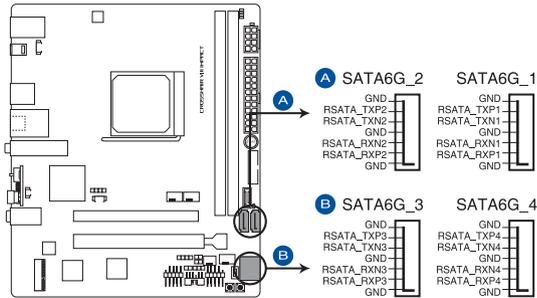


- システム起動エラー発生時、Q-Code LEDにはトラブルシューティングのために、可能性が高いPOSTエラーコードが表示されます。なお、POSTエラーコードは代表的な原因をもとに表示されており、実際のエラー原因とは異なる場合があります。
- コードの詳細については、付録のQ-Code表をご参照ください。

1.10 内部コネクタ

1. SATA 6Gb/s ポート

SATAストレージデバイスや光学ドライブを接続することができます。これらのポートに接続したストレージデバイスを使用してRAIDを構築することが可能です。



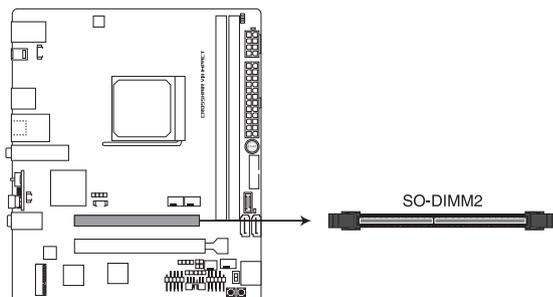
ROG CROSSHAIR VIII IMPACT SATA 6 Gb/s connector



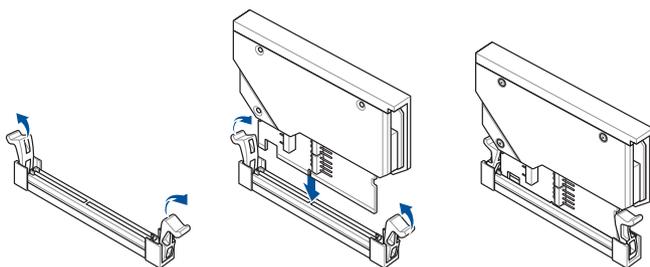
- SATA動作モードは工場出荷時 [AHCI] に設定されています。RAIDを構築する場合は、UEFI BIOS Utilityで「SATA Mode」を [RAID] に設定してください。
- RAID の設定については、RAID 設定マニュアルをご覧ください。RAID 設定マニュアルは ASUS オフィシャルサイトからダウンロードしてご覧いただけます。

2. SO-DIMM.2 スロット

製品に付属の ROG SO-DIMM.2 カードを取り付けることで、M.2 Socket 3 スロット、第2世代アドレスサブヘッダー、ラジエーターファンコネクタなどを拡張することができます。



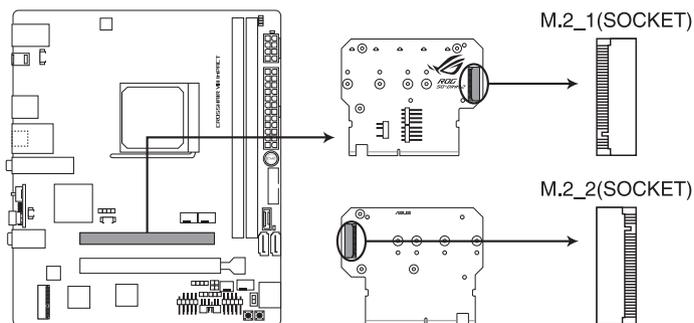
ROG CROSSHAIR VIII IMPACT SO-DIMM.2 slot



- SO-DIMM.2 スロットは、付属のROG SO-DIMM.2 カード専用設計されています。その他の機器を取り付けることはできません。
- ROG SO-DIMM.2 カードは取り付け方向が決まっています。取り付けの際は ROG SO-DIMM.2 カードのノッチ位置が SO-DIMM.2 スロット側と一致していることをご確認ください。

3. M.2 Socket 3 スロット

M.2 Socket 3 (Key M) 規格のSSDを取り付けることができます。M.2 Socket 3 スロットは、ROG SO-DIMM.2 カード上に配置されています。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT M.2 slot



M.2 1 スロット (PCH接続) :

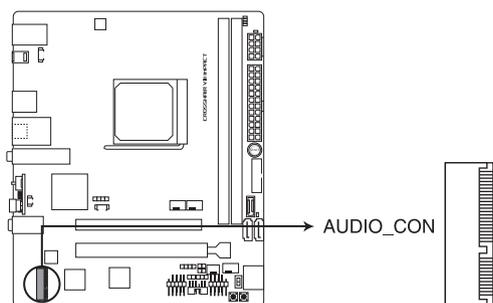
Key M、Type 2242/2260/2280、SATA / PCI Express 4.0 x4 接続対応

M.2 2 スロット (CPU接続) :

- 第3世代 AMD Ryzen™ プロセッサ
Key M、Type 2242/2260/2280、SATA / PCI Express 4.0 x4 接続対応
- 第2世代 AMD Ryzen™ プロセッサ、
第2世代/第1世代 Radeon™ Vega グラフィックス搭載AMD Ryzen™ プロセッサ
Key M、Type 2242/2260/2280、SATA / PCI Express 3.0 x4 接続対応

4. SUPREMEFX IMPACT IV オーディオコネクタ

SUPREMEFX IMPACT IV オーディオカードが取り付けられています。



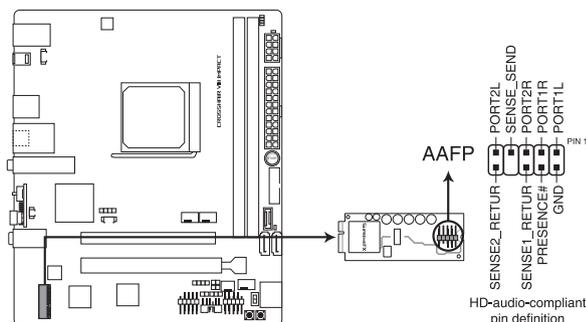
ROG CROSSHAIR VIII IMPACT SUPREMEFX IMPACT IV connector



SUPREMEFX IMPACT IV オーディオコネクタは、SUPREMEFX IMPACT IV オーディオカード専用設計されています。その他の機器を取り付けることはできません。

5. フロントパネルオーディオコネクタ

フロントパネルオーディオ機能用のコネクタです。PCケースなどに付属するフロントパネルオーディオモジュールを接続することができます。



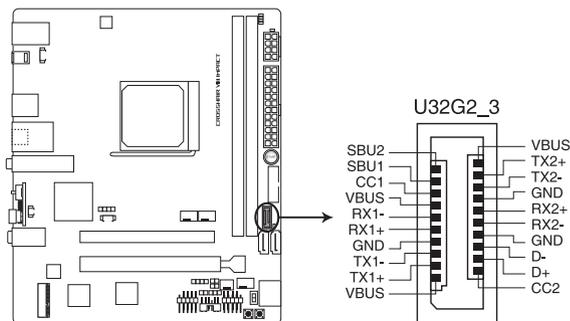
ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Front Panel Audio connector



本製品を最高のオーディオパフォーマンスでご利用いただくために、HDオーディオモジュールを使用することをおすすめします。

6. USB 3.2 Gen 2 コネクター

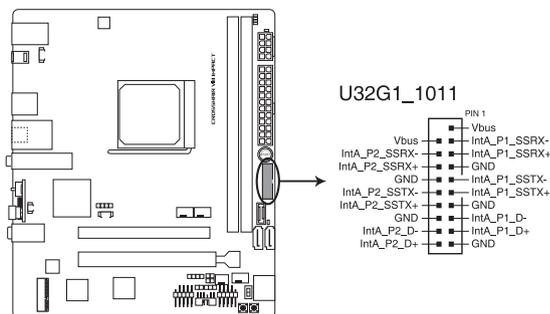
USB 3.2 Gen 2 ポート拡張用コネクターです。Key-A タイプの USB 3.2 Gen 2 ポート増設用ブラケットやフロントパネルの USB 3.2 Gen 2 端子を接続することで、1つの USB Type-C ポート または1つの Type-A ポートを使用することができます。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT USB 3.2 Gen 2 connector

7. USB 3.2 Gen 1 コネクター

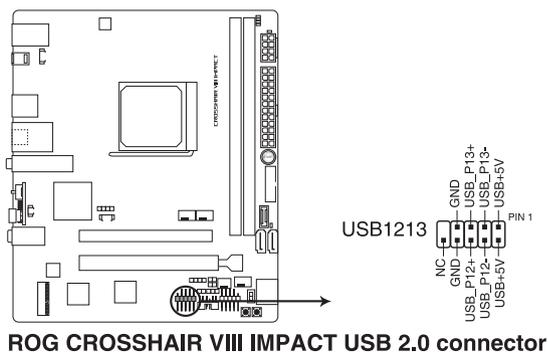
USB 3.2 Gen 1 ポート拡張用コネクターです。USB 3.2 Gen 1 増設用ブラケットやフロントパネルの USB 3.2 Gen 1 端子を接続することができます。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT USB 3.2 Gen 1 connector

8. USB 2.0 コネクタ

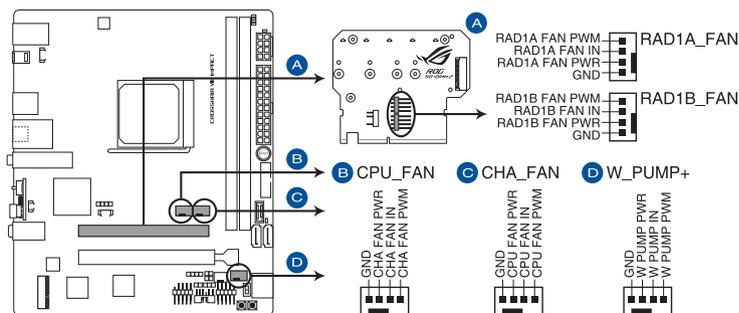
USB 2.0 ポート拡張用コネクタです。USB 2.0 増設用ブラケットやフロントパネルのUSB 2.0 端子を接続することができます。



IEEE 1394用ケーブルをUSBコネクタに接続しないでください。マザーボードが損傷する原因となります。

9. ファン/ポンプコネクター

CPUファン、ケースファンなどの各種冷却ファンや水冷キットのポンプ、ラジエーターファンを接続します。ラジエーターファンコネクターは、ROG SO-DIMM.2 カード上に配置されています。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Fan and Pump connectors



PCケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードやコンポーネントが損傷する恐れがあります。組み立ての際にはシステムの冷却ファン(吸/排気ファン)を必ず搭載してください。

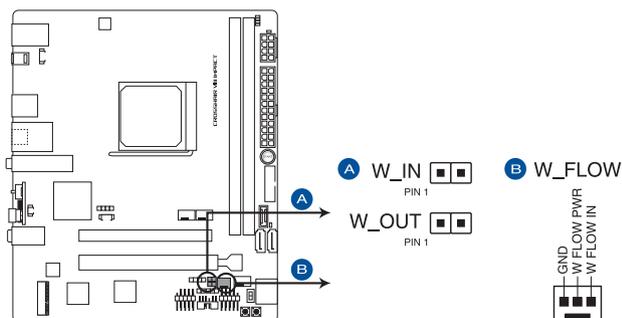


オールインワン (AIO) 水冷式クーラーを使用する場合は、CPU_FAN コネクターにポンプを、RAD1A_FAN/RAD1B_FAN コネクターにはラジエーターの冷却ファンを接続します。

ヘッダー	最大電流	最大出力	デフォルト設定	連動制御
CPU_FAN	1A	12W	Q-Fan コントロール	-
CHA_FAN	1A	12W	Q-Fan コントロール	-
RAD1A_FAN	1A	12W	Q-Fan コントロール	A
RAD1B_FAN	1A	12W	Q-Fan コントロール	A
W_PUMP+	3A	36W	フルスピード	-

10. 水冷システム用コネクタ

水流IN/水流OUT コネクタに温度センサーを、水流量コネクタに流量センサーを接続することで、水冷システムの水温や流量をモニタリングすることができます。



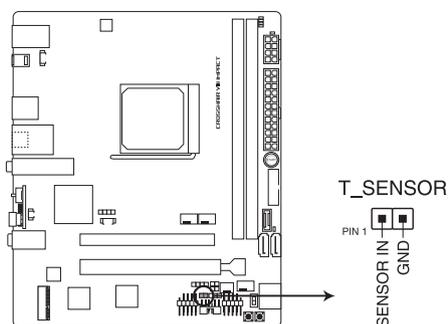
ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Water Cooling System connectors



- 温度センサー、流量センサーは別途お買い求めください。
- 水流量コネクタは、200rpm (3L/min) 以上の水流量をモニターすることができます。

11. 温度センサーコネクタ

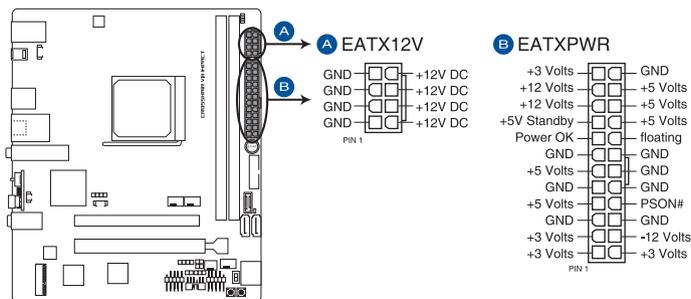
サーミスタケーブルを接続することで、任意の場所やデバイスの温度をモニターすることができます。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Thermal Sensor connector

12. 電源コネクター

電源ユニット用コネクターです。電源ユニットのメインコネクターやCPU補助電源を接続します。電源ケーブルとコネクターにはツメがあるので、お互いがかみ合う方向に正しく接続してください。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Power connectors



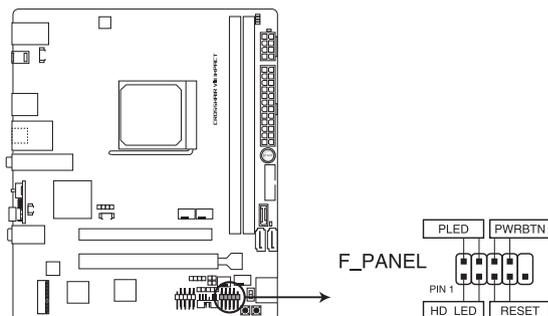
CPU補助電源は8ピン EPS 12Vを接続してください。4ピン ATX12V 接続のみで使用すると、異常温度上昇などの原因になる恐れがあります。



- ATX12V version 2.4 またはそれ以降の規格に準拠した電源ユニットをご使用ください。
- 大量に電力を消費するデバイスを使用する場合は、高出力の電源ユニットの使用をお勧めします。電源ユニットの能力が不十分だと、システムが不安定になる、またはシステムが起動できなくなる等の問題が発生する場合があります。

13. システムパネルコネクタ

PCケースのボタンやLEDケーブル、ビープスピーカなどを取り付けることができます。製品付属のシステムパネルケーブルを使用することで、ケーブル接続をより簡単に安全に行うことができます。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT System panel connector

- **システム電源LEDコネクタ (PLED)**

システム電源LED用 2ピンコネクタです。PCケースなどの電源LEDケーブルを接続します。このLEDはシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープ状態に入ると点滅します。

- **ストレージデバイスアクティビティ LED コネクタ (HD_LED)**

ストレージデバイスアクティビティLED用2ピンコネクタです。マザーボード上のSATAポートに接続しているストレージデバイスがデータの読み書きを行なっている状態の時に点灯または点滅します。

- **電源ボタン/ソフトオフボタンコネクタ (PWRBTN)**

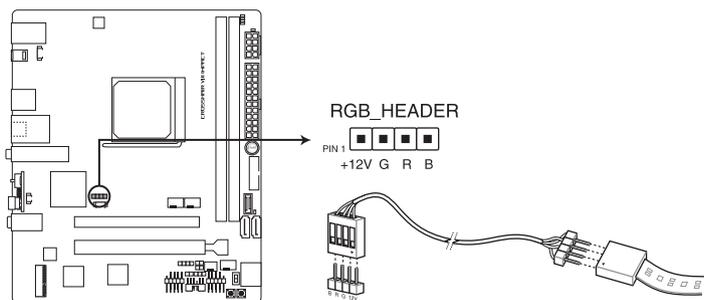
システムの電源ボタン用2ピンコネクタです。電源ボタンを押すとシステムの電源がオンになります。OSが起動している状態で、電源ボタンを押してから4秒以内に離すと、システムはOSの設定に従いスリープモード、または休止状態、シャットダウンに移行します。電源ボタンを4秒以上押すと、システムはOSの設定に関わらず強制的にオフになります。

- **リセットボタンコネクタ (RESET)**

リセットボタン用2ピンコネクタです。リセットボタンを押すとシステムは強制的に再起動が実行されます。保存されていない作業中のデータは削除されてしまいます。

14. RGB ヘッダー

システムを色鮮やかに彩ることができるRGB LEDストリップ (LEDテープ) を接続することができます。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT AURA RGB LED connector



RGB ヘッダーは、電源電圧12VのSMD5050 RGB LEDストリップに対応しています。(定格最大12V/3A、最長3m まで)



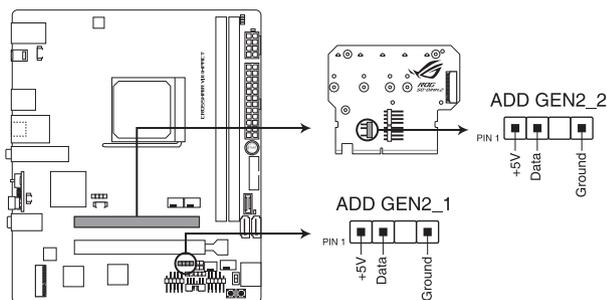
コンポーネントの取り付け・取り外しを行う際は、事前にATX電源がオフになっていること、電源コードが電源から取り外されていることを確認してください。マザーボード及び周辺機器、コンポーネントの故障や不具合の原因となる恐れがあります。



- 実際の点灯色や点灯方法は取り付けられたLEDストリップの種類により異なります。
- 点灯しない場合は、LEDストリップが本製品がサポートする仕様の範囲内であること、コネクタが正しい向きで接続されていることをご確認ください。
- このコネクタに接続されたRGB LEDストリップは電源オン時のみ点灯します。
- LEDストリップは別途お買い求めください。

15. 第2世代 アドレスابلヘッダー

マイクロコントローラーを内蔵するアドレス可能なWS2811 LEDドライバーIC搭載のRGB LED WS2812B ベースのLEDストリップを接続することができます。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Addressable RGB LED connector



アドレスابلヘッダーは、定格最大5V/3A (LED 最大 120 個まで) の RGB LED WS2812B ベースの LED ストリップに対応しています。



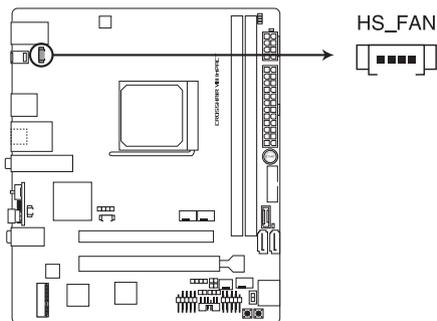
コンポーネントの取り付け・取り外しを行う際は、事前にATX電源がオフになっていること、電源コードが電源から取り外されていることを確認してください。マザーボード及び周辺機器、コンポーネントの故障や不具合の原因となる恐れがあります。



- 実際の点灯の仕方と色はLEDストリップにより異なります。
- 点灯しない場合は、LEDストリップが本製品がサポートする仕様の範囲内であること、コネクタが正しい向きで接続されていることをご確認ください。
- このコネクタに接続されたRGB LED ストリップは電源オン時のみ点灯します。
- LED ストリップは別途お買い求めください。

16. HS ファンコネクタ

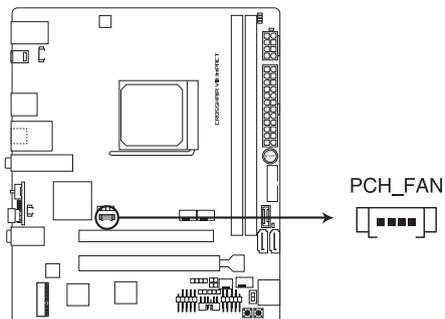
バックパネル I/O カバー内のヒートシンク部に設置された冷却ファンが接続されています。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT HS fan connector

17. PCH ファンコネクタ

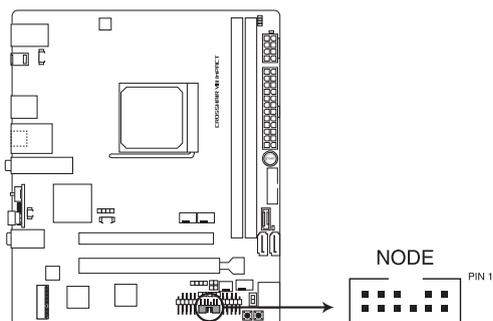
PCHヒートシンク部に設置された冷却ファンが接続されています。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT PCH fan connector

18. NODEコネクタ

互換性のある電源ユニットやファン拡張カードを接続し、制御などを行うことができます。



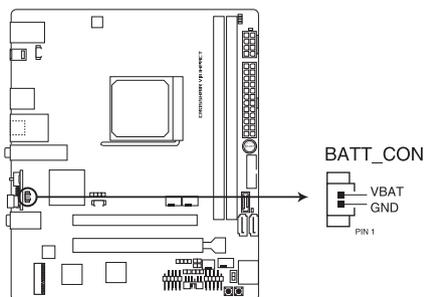
ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Node connector



対応機器の詳細な情報は、ASUS公式サイトをご覧ください。

19. RTC バッテリーヘッダー

CMOS (RTC) 電池が接続されています。



ROG CROSSHAIR VIII IMPACT Battery connector

基本的な取り付け

2.1 コンピューターを組み立てる

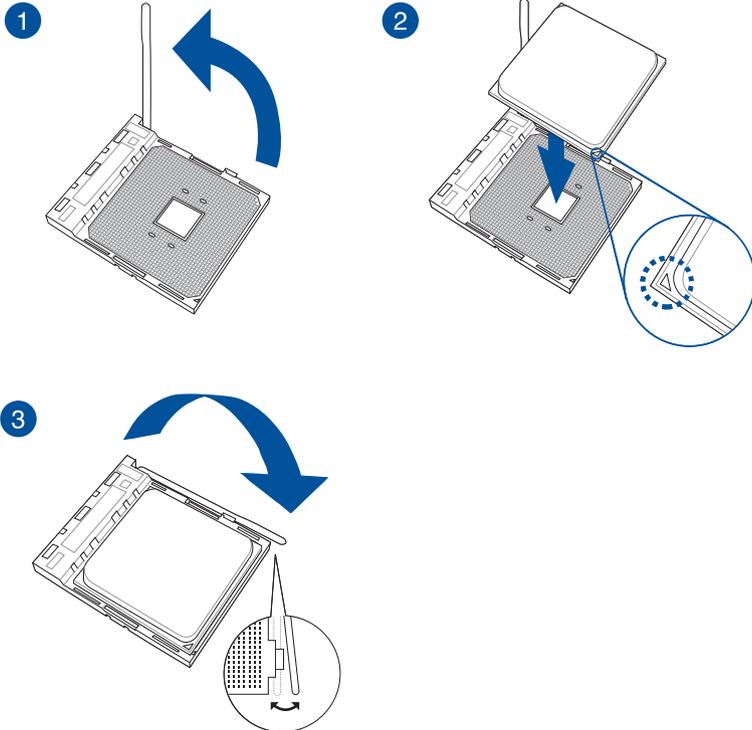


本マニュアルで使用されているイラストや画面は実際とは異なる場合があります。マザーボードのレイアウトはモデルにより異なりますが、取り付け方法は同じです。

2.1.1 CPUを取り付ける



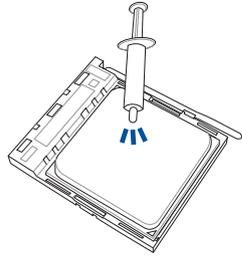
- ・ 本製品の対応するCPUについて、詳しくはASUSオフィシャルサイトをご覧ください。
(<https://www.asus.com/>)
- ・ CPUは取付方向が決まっています。取付方向を間違えないようにしてください。間違えて取り付けた場合、故障の原因となります。



2.1.2 CPUクーラーを取り付ける

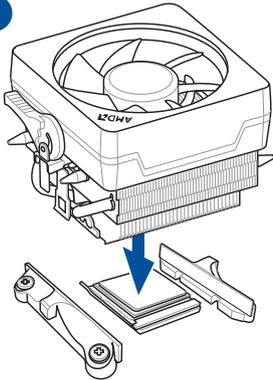


CPUクーラーを取り付ける前に、必ずCPUにサーマルグリスを塗布してください。CPUクーラーによって、サーマルグリスや熱伝導体シートなどが購入時から塗付されているものがあります。

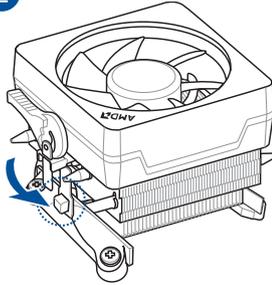


タイプ1

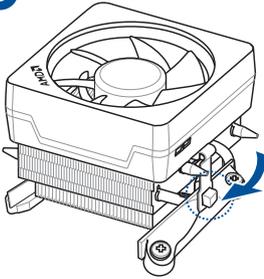
1



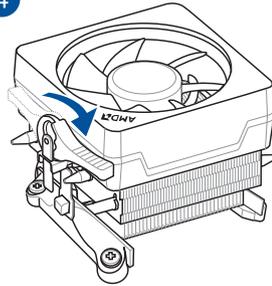
2



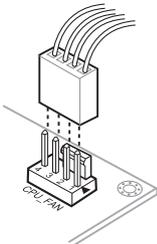
3



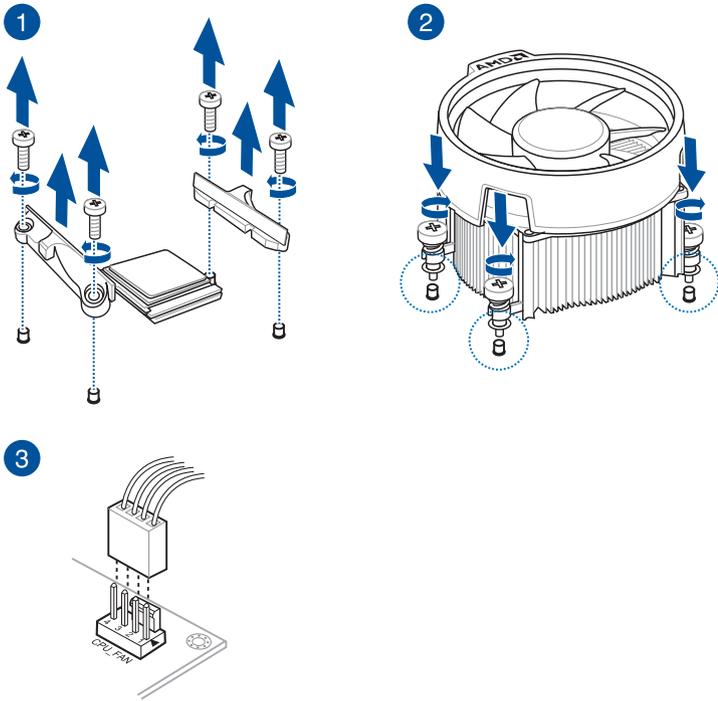
4



5



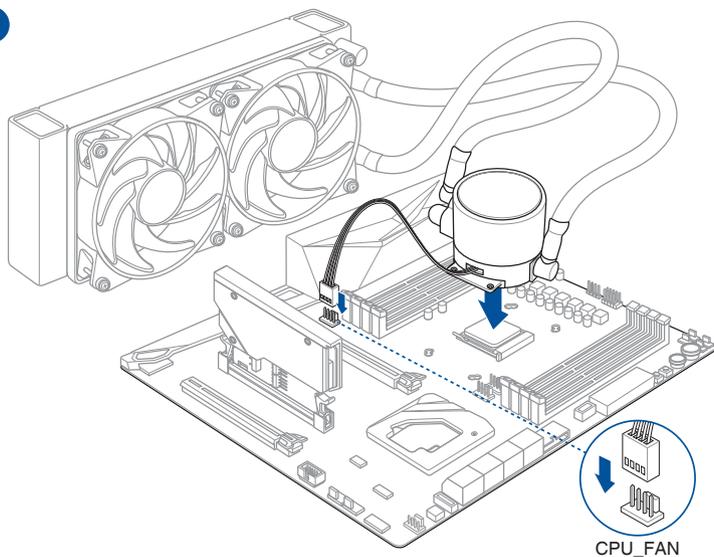
タイプ2



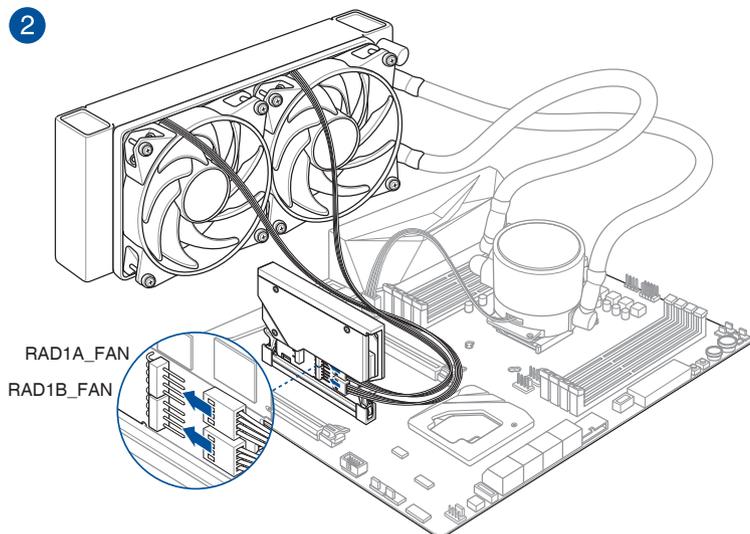
ネジとリテンションだけを取り外します。マザーボード底面のプレートは取り外さないでください。

AIOクーラーを取り付ける

1



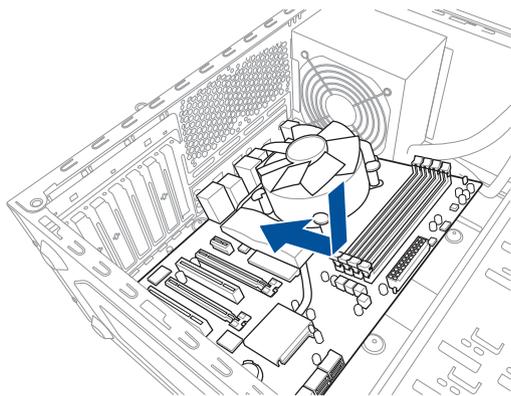
2



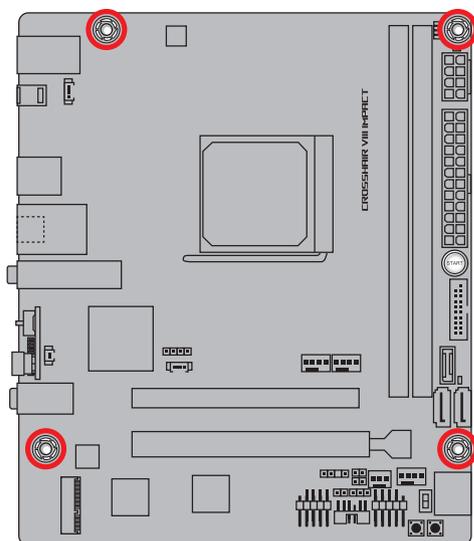
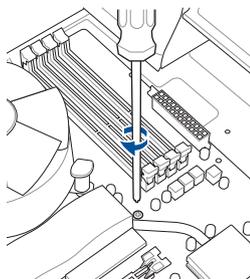
本書に記載している画面は一例です。画面の背景、画面デザイン、表示される項目名、アイコンなどの種類や位置などが実際の画面と異なる場合があります。ヘッダーの位置は「1.2 マザーボードのレイアウト」をご参照ください。

2.1.3 マザーボードを取り付ける

1. PCケースとマザーボードのバックパネルの位置が一致していることを確認してバックパネル側から慎重に挿入し、マザーボードのネジ穴とスペーサーが合うように設置します。

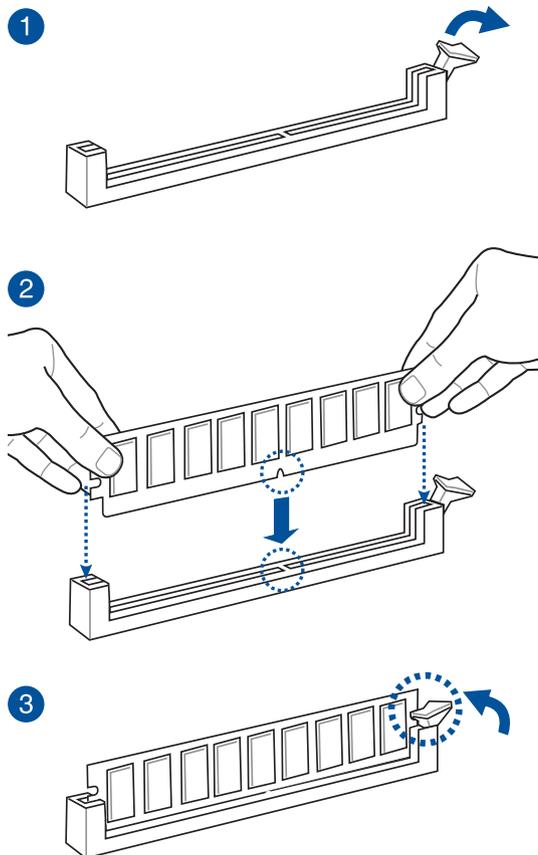


2. 下図を参考に、取り付けネジをすべて仮止めし、対角線上に少しずつ締めていきます。

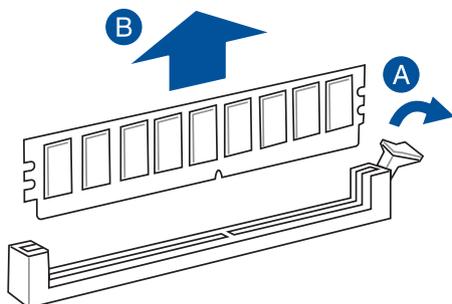


ネジはきつく締めすぎないように注意してください。

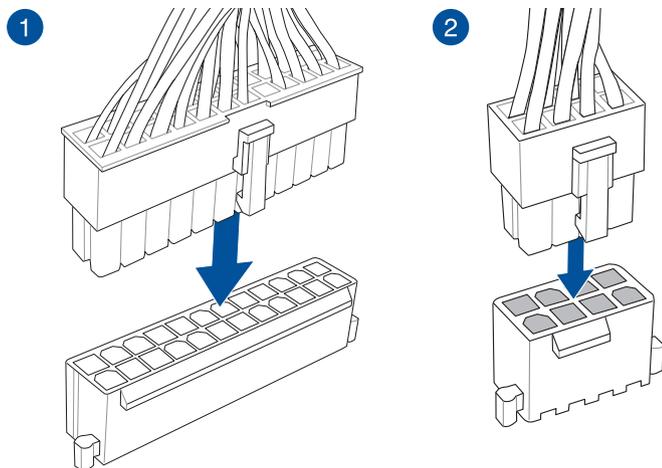
2.1.4 メモリーを取り付ける



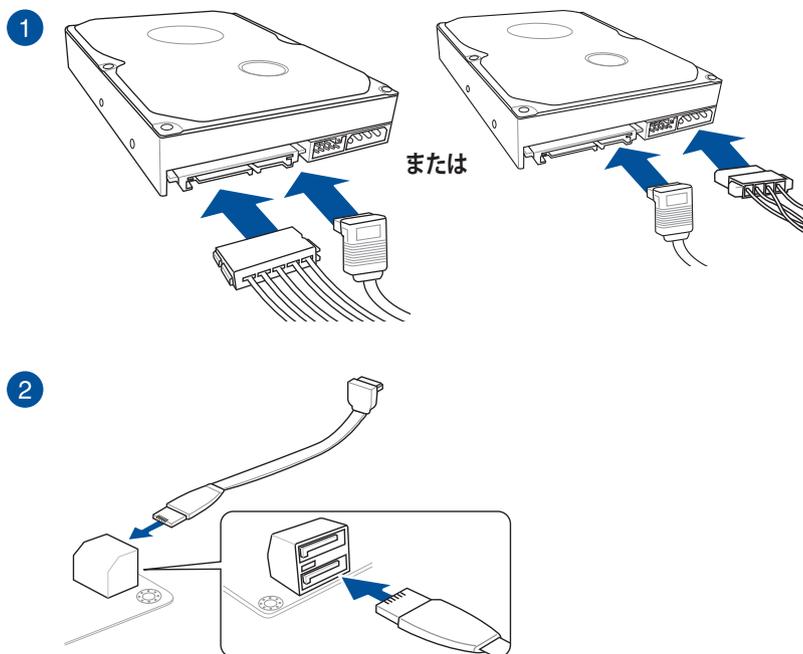
メモリーを取り外す



2.1.5 ATX 電源を取り付ける

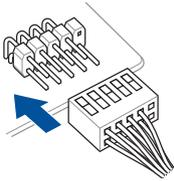


2.1.6 SATAデバイスを取り付ける

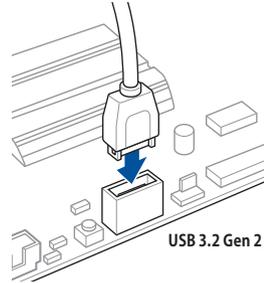


2.1.7 フロント I/O コネクタを取り付ける

システムパネルコネクタ

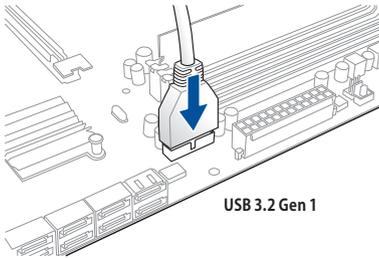


USB 3.2 Gen 2 コネクタ

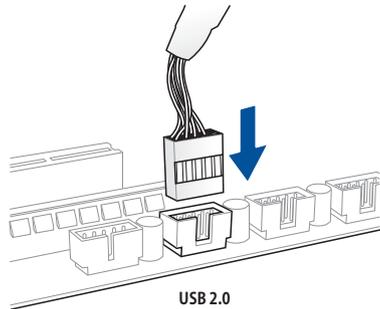


コネクタは接続できる向きが決まっています。端子形状を確認し、まずは奥まで差し込んでください。

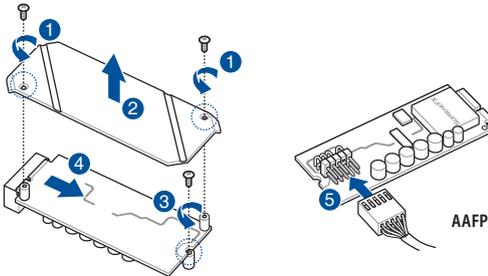
USB 3.2 Gen 1 コネクタ



USB 2.0 コネクタ

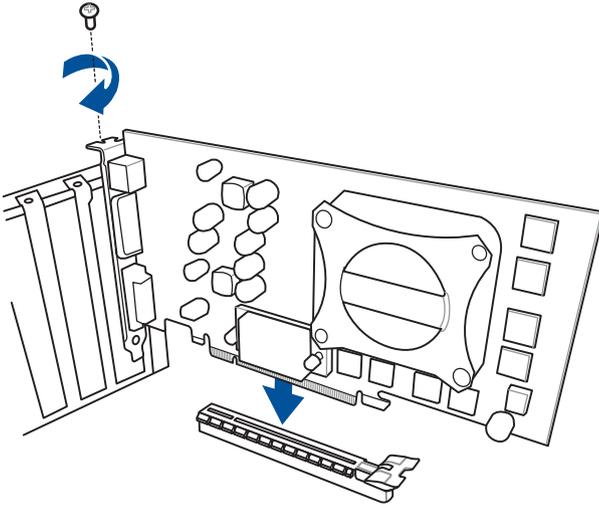


フロントパネルオーディオコネクタ



2.1.8 拡張カードを取り付ける

PCI Express x16 カード

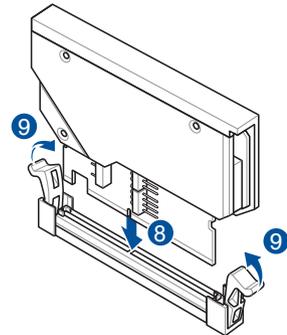
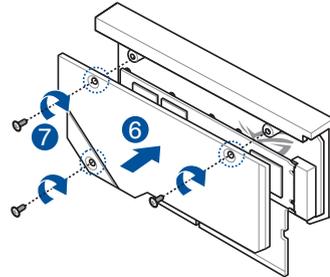
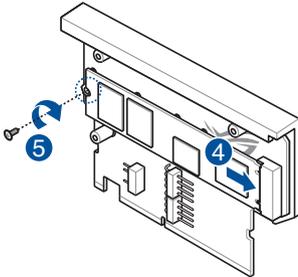
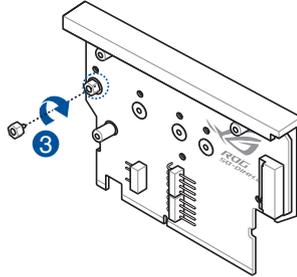
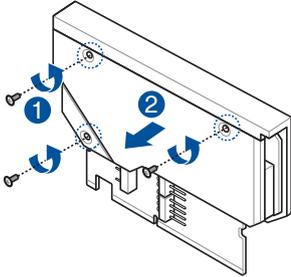


2.1.9 M.2 SSD を取り付ける

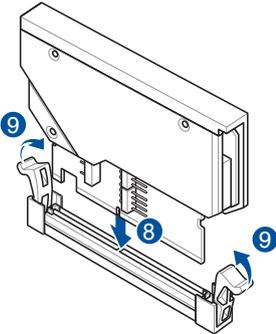
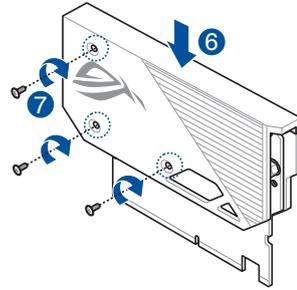
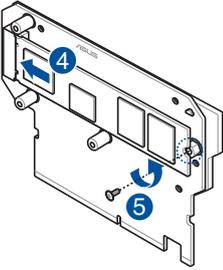
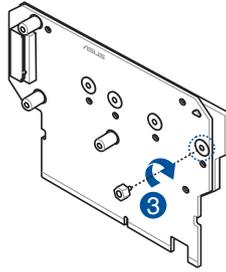
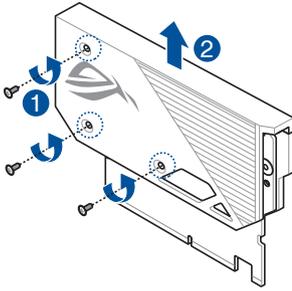


- ・ サーマルパッド保護フィルムの剥がし忘れにご注意ください。
- ・ 付属のゴムパッドは、ROG SO-DIMM.2 カードの M.2_PAD の位置に貼り付けます。

M.2_1 スロット

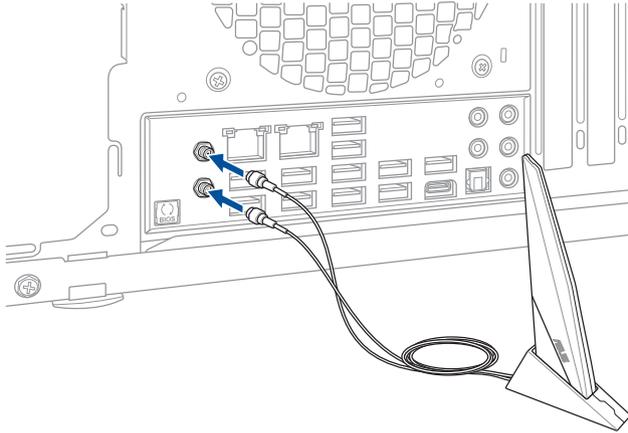


M.2_2 スロット



2.1.10 付属のアンテナを取り付ける

バックパネルの無線通信用アンテナポートに付属のアンテナを接続します。



- 使用中にアンテナが外れないよう、しっかりと取り付けてください。
- アンテナは人体から20cm以上離れた場所に設置してください。
- 無線通信機能は、各国の電波法の適合または認証を取得している国でのみ使用できません。販売国以外で使用する場合はご注意ください。

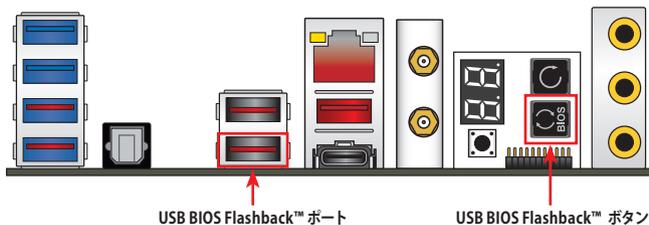
2.2 UEFI BIOSを更新する

USB BIOS Flashback™

USB BIOS Flashback™ はこれまでのBIOS更新ツールとはまったく違う、とても便利なUEFI BIOSの更新手段です。UEFI BIOS UtilityやOSを起動することなく、簡単にUEFI BIOSを更新することができます。CPUやメモリーの取り付けは不要で、特定のUSBポートにBIOSイメージファイルを保存したUSBメモリーを接続し、USB BIOS Flashback™ ボタンを数秒間押すだけで、スタンバイ電源で自動的にUEFI BIOSの更新を行なうことができます。

手順：

1. ASUS オフィシャルサイトからBIOS イメージファイルをダウンロードし、ダウンロードしたファイルを展開します。
2. 展開によって出現したBIOS ファイルの名前を「**C8I.CAP**」に変更します。
3. BIOS イメージファイルをUSB メモリーのルートディレクトリにコピーします。
4. コンピューターをシャットダウンし、BIOSイメージファイルを入れたUSBメモリーをUSB BIOS Flashback™ に対応するUSB ポートに接続します。
5. USB BIOS Flashback™ LEDが点滅を始めるまで、USB BIOS Flashback™ ボタンを押し続けます。(約3秒)



6. USB BIOS Flashback™ が完了するとLEDは消灯します。LEDが完全に消灯したことを確認してシステムを起動し、UEFI BIOS Utilityを確認します。



- UEFI BIOS更新中はUSBメモリーを取り外す、電源プラグを抜く、オンボードスイッチを押す、ジャンプスイッチの位置を変更するなど一切の行為を行わないようご注意ください。BIOS更新中に他の行為を行なった場合、UEFI BIOSの更新が中断する可能性があります。

- USB BIOS Flashback™ LEDが5秒ほど点滅したあとで点灯状態となる場合は、USB BIOS Flashback 機能が正常に動作していないことを示しています。

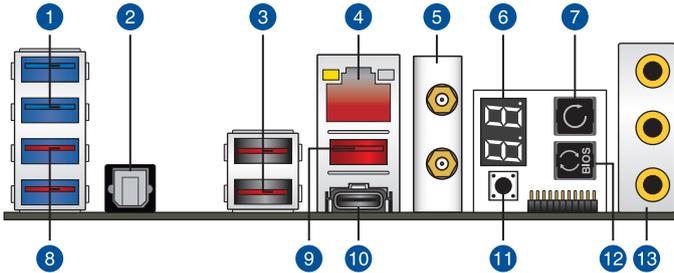
考えられる原因：

1. USBストレージが正しく取り付けられていない。
 2. サポート外のファイルシステム、またはファイル名が正しくない。
- このようなエラーが発生した場合は、電源装置のスイッチをオフにするなどしてシステムの電源を完全にオフにした後に再度実行してください。

- UEFI BIOSのアップデートにはリスクが伴います。UEFI BIOSのアップデートに失敗すると、UEFI BIOSが破損、損傷しシステムを起動することができなくなる恐れがあります。UEFI BIOSのアップデートに伴う不具合、動作不良、破損等に関しましては保証の対象外となります。
- USB BIOS Flashback™ を実行後システムが起動しなくなった場合は、一旦電源ケーブルを抜いてシステムを完全にシャットダウンした後、再度システム起動またはUSB BIOS Flashback™ をお試しください。

2.3 バックパネルとオーディオ接続

2.3.1 バックパネルコネクタ



バックパネルコネクタ

- | | |
|-----|--|
| 1. | USB 3.2 Gen 1 ポート |
| 2. | 光デジタルS/PDIF 出力ポート |
| 3. | USB 3.2 Gen 2 ポート |
| 4. | LAN (RJ-45) ポート* |
| 5. | 無線通信用アンテナポート |
| 6. | Q-Code |
| 7. | CMOSクリアボタン |
| 8. | USB 3.2 Gen 2 ポート (対応する規格は搭載するプロセッサにより異なります) |
| 9. | USB 3.2 Gen 2 ポート |
| 10. | USB Type-C™ with USB 3.2 Gen 2 ポート |
| 11. | リセットボタン |
| 12. | USB BIOS Flashback™ ボタン |
| 13. | オーディオ I/O ポート** |

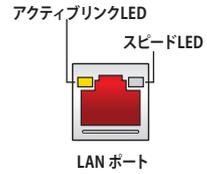
***: LEDの点灯内容、及びオーディオ I/O ポートの構成は次のページでご確認ください。



- コードの詳細については、付録のQ-Code 表をご参照ください。
- リセットボタンはFlexkeyとして特定の機能を割り当てることができます。設定はUEFI BIOS Utilityで行います。

* LAN ポートLED

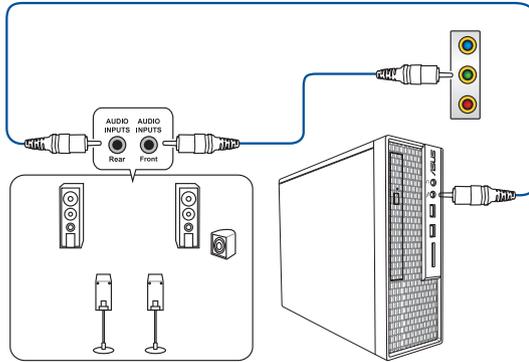
アクティブリンク LED		スピード LED	
状態	説明	状態	説明
消灯	未接続	消灯	10 Mbps
オレンジ (点灯)	リンク確立	オレンジ	100 Mbps
オレンジ (点滅)	データ送受信中	グリーン	1 Gbps



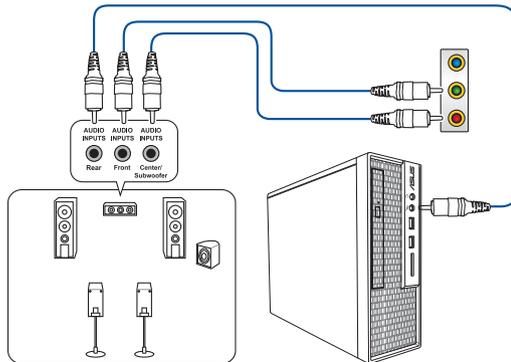
** オーディオ構成表

ポート	ヘッドセット 2.1チャンネル	4.1チャンネル	5.1チャンネル	7.1チャンネル
ブルー LED (リアパネル)	ライン入力	ライン入力	ライン入力	サイドスピーカー 出力
グリーン LED (リアパネル)	ライン出力	フロント スピーカー出力	フロント スピーカー出力	フロント スピーカー出力
レッド LED (リアパネル)	マイク入力	マイク入力	センター/ サブウーファ スピーカー出力	バス / センター
ヘッドホン (フロントパネル)	-	-	-	-
マイク (フロントパネル)	-	リア スピーカー出力	リア スピーカー出力	リア スピーカー出力

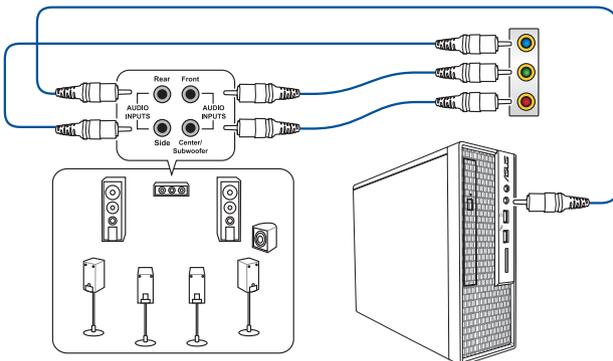
4.1 チャンネルスピーカーに接続



5.1 チャンネルスピーカーに接続



7.1 チャンネルスピーカーに接続



2.4 初めて起動する

1. すべてのコンポーネントやデバイスの取り付けが完了したら、PCケースのカバーを取り付けます。
2. すべてのスイッチをがオフになっていることを確認します。
3. 電源コードをPCケース背面の電源ユニットのコネクターに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. 以下の順番でデバイスの電源をオンにします。
 - a. モニター/ディスプレイ
 - b. 外部デバイス類 (デジチェーンの最後のデバイスから)
 - c. システム電源
6. 電源ユニットにスイッチがある場合はスイッチをオン状態にします。次にPCケースの電源ボタンを押してシステムの電源をオンにします。正常に電源がオンになるとシステム電源LEDが点灯します。また、ディスプレイがスタンバイ状態の場合、システムの電源をオンにするとディスプレイは自動的にスタンバイ状態から復帰します。

次に、システムはPOST(Power On Self Test) と呼ばれる起動時の自己診断テストを実行します。このPOST時に問題が確認された場合はBIOSによりピープ音が発せられるか、ディスプレイ画面上にエラーメッセージが表示されます。

システムの電源をオンにしてから30秒以上経過してもディスプレイ画面になにも表示されない場合は、電源オンテストに失敗した可能性があります。ジャンパー設定や取り付けたデバイスの状態を確認し、問題が解決しない場合は各メーカーや販売店にご相談ください。次の表はピープ音が示すエラーの内容です。

UEFI BIOS ビープ	説明
短いビープ1回 (・)	グラフィックスカードの検出(正常起動) クイックブート設定が無効(正常起動) キーボード検出エラー
長いビープ1回+短いビープ2回 同じパターンで繰り返し (-・・)	メモリー検出エラー
長いビープ1回+短いビープ3回 (-・・・)	グラフィックスカード検出エラー
長いビープ1回+短いビープ4回 (-・・・・)	ハードウェアエラー

7. POST中にキーボードの<F2>または<Delete>を押すとUEFI BIOS Utilityを起動することができます。UEFI BIOS Utilityの設定について、詳細はChapter 3をご参照ください。

2.5 システムの電源をオフにする

OSが起動している状態で、電源スイッチを押してから4秒以内に離すと、システムはOSの設定に従いスリープモード、または休止状態、シャットダウンに移行します。電源スイッチを4秒以上押し続けると、システムはOSの設定に関わらず強制的にオフになります。この機能は、OSやシステムがフリーズ(ロック)して、通常のシステム終了作業が行えない場合にのみご使用ください。強制終了は各コンポーネントに負担をかけます。万一の場合を除き頻繁に強制終了をしないようご注意ください。

UEFI BIOS設定

3.1 UEFIとは



ASUS UEFI BIOSは、従来のキーボード操作だけでなくマウスでの操作も可能となったグラフィカルでユーザーフレンドリーなインターフェースです。OSを使用するのと同じくらい簡単に操作することができます。* EFI (UEFI) が従来のBIOSと同じ機能を持つことから、ASUSはEFI (UEFI) を「**UEFI BIOS**」、「**BIOS**」と表記します。

UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) は、Intel 社が提唱している、従来パソコンのハードウェア制御を担ってきた BIOS に代わる、OS とファームウェアのインターフェース仕様です。UEFI は非常に高機能な最新のファームウェアで従来の BIOS と違い拡張性に富んでいます。UEFI の設定はマザーボードの CMOS RAM (CMOS) に保存されています。通常、UEFI のデフォルト設定はほとんどの環境で、最適なパフォーマンスを実現できるように設定されています。以下の状況以外では、**デフォルト設定のままで使用することをお勧めします**。

- システム起動中にエラーメッセージが表示され、UEFI BIOS Utility を起動するように指示があった場合
- UEFI BIOS の設定を必要とするコンポーネントをシステムに取り付けた場合



不適切な設定を行なうと、システムが起動しない、または不安定になるといった症状が出る場合があります。**設定を変更する際は、専門知識を持った技術者等のアドバイスを強くお勧めします。**

3.2 UEFI BIOS Utility

BIOS (Basic Input and Output System) とは、マザーボードに接続されたコンポーネント・デバイス を制御するシステムプログラムです。コンピューターの起動時に最初に起動するプログラムで、記憶装置の構成、オーバークロック設定、電源の管理、起動デバイス設定などのシステムハードウェアの設定をすることができます。

本製品にはBIOSに代わるUEFI (Unified Extensible Firmware Interface) が搭載されています。UEFI BIOS Utility では各種パラメーターの調整や各種機能の有効/無効、BIOSイメージの更新などを行なうことができます。

コンピューターの起動時にUEFI BIOS Utilityを起動する

システムは起動時にPOST (Power On Self Test) と呼ばれる起動時の自己診断テストを実行します。このPOST中に<F2>または<Delete>を押すことでUEFI BIOS Utility を起動することができます。



- 本マニュアルで使用されているイラストや画面は実際のものとは異なる場合があります。
- マウスでUEFI BIOS Utilityの操作を行なう場合は、USBマウスをマザーボードに接続してからシステムの電源をオンにしてください。
- 設定を変更した後システムが不安定になる場合は、デフォルト設定をロードしてください。デフォルト設定に戻すには、<F5>を押すか Exitメニューの「**Load Optimized Defaults**」を選択します。詳細は「**3.10 Exit**」をご参照ください。
- 設定を変更した後システムが起動しなくなった場合は、CMOSクリアを実行し、マザーボードのリセットを行なってください。CMOSクリアボタンの位置は「**2.3.1 バックパネルコネクター**」をご参照ください。
- UEFI BIOS UtilityはBluetooth デバイスには対応していません。
- UEFI BIOS Utility上で、キーボードは英語配列キーボードとして認識されます。
- UEFI BIOS Utility の各項目の名称、設定値、デフォルト設定値は、ご利用のモデルやUEFI BIOSバージョン、取り付けたハードウェアにより異なる場合があります。予めご了承ください。



UEFI BIOS Utilityについて、詳しくは弊社Webサイトに掲載のBIOSコンテンツマニュアルも併せてご覧ください。

起動デバイスを選択する

起動デバイスの優先順位はUEFI BIOS Utility で設定することができます。システム起動時にキーボードの<F8>キーを押すことで、UEFI BIOS Utility を起動することなくダイレクトに起動デバイスを選択することも可能です。

メニュー画面

UEFI BIOS Utilityには、**EZ Mode** と **Advanced Mode** の2つのモードがあります。モードの切り替えは<F7>を押すか、画面右下の「**Advanced Mode(F7)**」/「**EZ Mode(F7)**」ボタンを押すことで簡単に切り替えることができます。

3.2.1 Advanced Mode

Advanced Modeでは、高度なシステムの調整から、オンボード機能の有効/無効など詳細な設定を行なうことができます。



UEFI BIOS Utility起動時に表示する画面モードは変更することができます。詳細は「3.8 Boot」をご参照ください。

The screenshot shows the UEFI BIOS Utility in Advanced Mode. The interface is dark-themed with red accents. At the top, there's a navigation bar with tabs: My Favorites, Main, Extreme Tweaker (selected), Advanced, Monitor, Boot, Tool, and Exit. The main area is divided into several sections: LN2 Mode (Disabled), Target CPU Speed (3800MHz), Target DRAM Frequency (2133MHz), Target FCLK Frequency (1200MHz), AI Overclock Tuner (Auto), Performance Enhancer (Manual), Memory Frequency (Auto), FCLK Frequency (Auto), Core Performance Boost (Auto), CPU Core Ratio (Auto), TPU (Keep Current Settings), Performance Bias (Auto), and Precision Boost Overdrive (Disabled). On the right, there's a Hardware Monitor section showing CPU Frequency (3800 MHz), Temperature (47°C), BCLK Freq (100.0 MHz), Core Voltage (1.409 V), Ratio (38x), Memory Frequency (2133 MHz), Voltage (1.208 V), Capacity (4096 MB), and Voltage (+12V: 12.320 V, +5V: 4.920 V, +3.3V: 3.264 V). At the bottom, there's a footer with 'Version 2.20.1271. Copyright (C) 2019 American Megatrends, Inc.', 'Last Modified', 'EZ Mode (F7)', 'Hot Keys', and 'Search on FAQ'. Red lines and boxes highlight various elements, with Japanese labels: '構成フィールド' (Configuration fields), 'ポップアップウィンドウ' (Pop-up window), 'メニューバー' (Menu bar), '表示言語' (Display language), 'MyFavorite(F3)', 'Qfan Control(F6)', 'EZ Tuning Wizard(F11)', '検索(F9)' (Search F9), 'スクロールバー' (Scrollbar), 'AURA ON/OFF(F4)', 'メインメニュー' (Main menu), '詳細情報' (Detailed information), 'Last modified', 'EZ Mode(F7)', 'Hot Keys', 'QRコードの表示' (QR code display), and 'ハードウェアモニター' (Hardware monitor).

メニューバー

画面上部に表示されるメニューバーはカテゴリーを表しています。各カテゴリーで設定できる内容は次のとおりです。

My Favorites	登録したお気に入り項目
Main	基本システム設定
Extreme Tweaker	オーバークロック関連
Advanced	拡張システム設定
Monitor	システム温度/電力状態の表示、およびファンの設定
Boot	システム起動関連
Tool	独自機能
Exit	終了メニュー、及びデフォルト設定のロード

メニュー

設定可能なアイテムまたは各種情報のタイトルが表示されます。設定の変更は、カーソルキーで項目に移動し<Enter>を押して選択します。

サブメニュー

サブメニューが含まれる項目には矢印マークが表示されています。サブメニューを開くには、カーソルキーで項目に移動し<Enter>を押します。

表示言語

UEFI BIOS Utility で表示する言語を選択することができます。

My Favorites (F3)

ツリーマップから頻繁に使用する項目をお気に入りとして登録することで、画面の切り替えなどの面倒な操作をせずに一画面で各種設定を変更することができますようになります。



詳細は「3.3 My Favorites」をご参照ください。

Qfan Control (F6)

Q-Fan Tuning画面を起動し、Q-Fan Control機能によるファンの調整を行なうことができます。



詳細は「3.2.3 Q-Fan Control」をご参照ください。

EZ Tuning Wizard (F11)

表示される画面の選択肢を選ぶだけで、簡単にシステムのオーバークロックをすることができます。



詳細は「3.2.4 EZ Tuning Wizard」をご覧ください。

Search (F9)

UEFI BIOS Utility 内の項目を検索することができます。(検索は英語でのみご利用いただけます)

AURA ON/OFF (F4)

オンボードAURA LEDのオン/オフに関連するBIOS設定を一括して変更することができます。

Search on FAQ

このボタンの上にマウスカーソルを合わせるとQRコードが表示されます。表示されたQRコードをお使いのスマートデバイスでスキャンすることで、ASUSサポートサイトにすばやくアクセスすることができます。



スクロールバー

設定項目が画面に収まりきらない場合は、スクロールバーがメニュー画面の右側に表示されます。マウスやカーソルキー、または <Page Up>/<Page Down> で、画面をスクロールすることができます。

詳細情報

選択した項目に関する詳細な情報を表示します。また、本製品では<F12>を押してUEFI BIOS Utility 画面のスクリーンショットを撮影し、USBメモリーに保存することができます。

構成フィールド

構成フィールドには各項目の現在設定されている状態や数値が表示されます。ユーザーによる変更が可能でない項目は、選択することができません。

設定可能なフィールドは選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を変更するには、そのフィールドをマウスで選択するか、表示されるナビゲーションキーに従い数値を変更し、<Enter>を押して決定します。

Hot Keys (操作ガイド)

UEFI BIOS Utilityを操作するためのキーボードの基本操作やショートカットの一覧を表示します。

Last Modified (最終更新内容)

前回保存したUEFI BIOS Utilityの変更内容を表示します。

3.2.2 EZ Mode

EZ Mode では、基本的なシステム情報の一覧が表示され、表示言語やシステムパフォーマンスモード、ブートデバイスの優先順位などが設定できます。

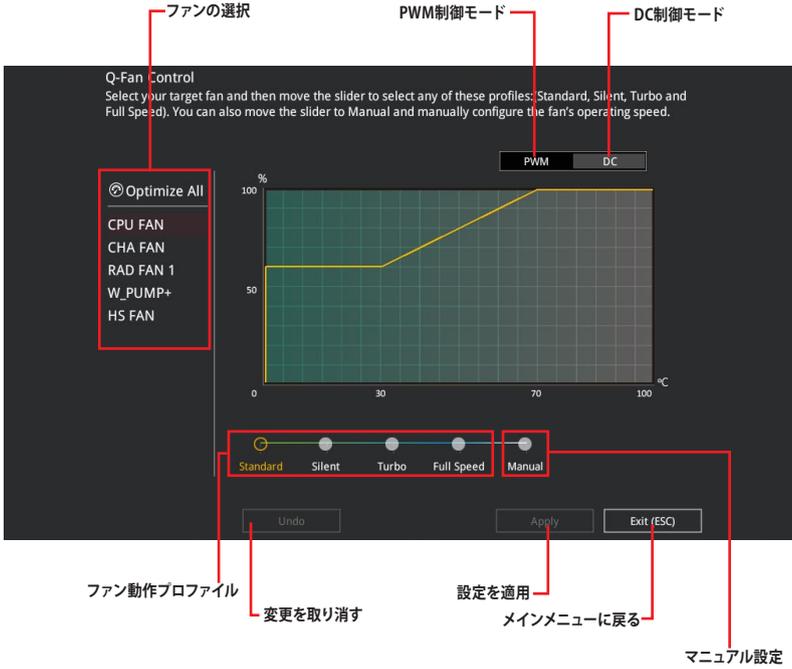


Advanced ModeからEZ Modeへ切り替えるには<F7>を押すか、画面右下の「EZ Mode(F7)」ボタンをクリックすることで簡単に切り替えることができます。

The screenshot shows the UEFI BIOS Utility in EZ Mode. The interface is dark-themed with red accents. At the top, it displays the date and time (06/05/2019, 19:00) and the language (English). The main area is divided into several sections: Information (ROG CROSSHAIR VIII IMPACT BIOS Ver. 0105, AMD Ryzen 5 3600X 6-Core Processor, Speed: 3800 MHz, Memory: 4096 MB), CPU Temperature (46°C), CPU Core Voltage (1.401 V), Motherboard Temperature (32°C), DRAM Status (DIMM_A1: SK Hynix 4096MB 2133MHz), Storage Information, D.O.C.P. (Disabled), and FAN Profile (CPU FAN 3409 RPM, CHA FAN N/A, RAD FAN 1 N/A, W_PUMP+ N/A, Flow Rate N/A, HS FAN N/A, PCH FAN N/A). A CPU FAN graph is visible in the FAN Profile section. On the right, there is an EZ System Tuning section with a gauge set to Normal, a Boot Priority section with IBA GE Slot 0300 v1573 selected, and a Boot Menu(F8) section. At the bottom, there are buttons for Default(F5), Save & Exit(F10), Advanced Mode(F7), and Search on FAQ. Japanese labels with red lines point to various features: 'システムインフォメーション' (System Information) points to the top left; 'EZ Tuning Wizard(F11)' points to the top center; '表示言語' (Display Language) points to the top right; 'Search(F9)' points to the search icon; 'AURA ON/OFF(F4)' points to the AURA icon; 'EZ System Tuning' points to the right-hand tuning section; 'Boot Priority' points to the boot priority section; 'Q-Fan Tuning' points to the CPU FAN graph; 'デフォルト設定を適用' (Apply Default Settings) points to the Default(F5) button; '終了メニュー' (Exit Menu) points to the Save & Exit(F10) button; 'Advanced Mode(F7)' points to the Advanced Mode(F7) button; 'QRコードの表示' (Display QR Code) points to the Search on FAQ button; '起動デバイスの表示' (Display Boot Device) points to the Boot Priority section; and '起動デバイスの優先順位' (Boot Device Priority) points to the Boot Priority section.

3.2.3 Q-Fan Control

Q-Fan Controlでは、CPU温度にあわせて各ファンの回転数を制御することができます。また、環境に合わせて既定の動作プロファイルを選択することも可能です。



ファンの回転数を手動で設定する

プロファイルの「Manual」を選択することで、ファンの回転数を手動で設定することができます。



手順

1. 設定を変更するファンを選択し、プロファイルの「Manual」を選択します。
2. スピードポイントをドラッグして、CPU温度に対するファンの回転数を設定します。
3. 「Apply」をクリックして設定を適用します。メインメニューへ戻るには「Exit (ESC)」をクリックします。

3.2.4 EZ Tuning Wizard

設定ウィザード表示される画面の選択肢を選ぶだけで、簡単にシステムのオーバークロックをすることができます。

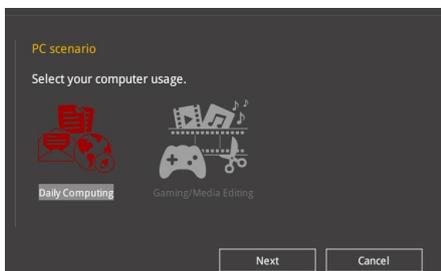


システムオーバークロック

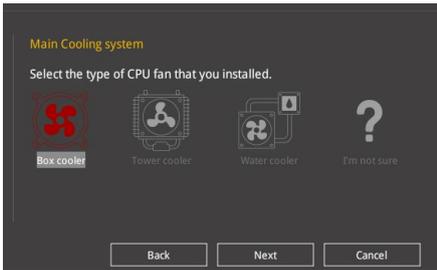
OC Tuning

To start OC Tuning:

1. キーボードの<F11>を押すか、画面上部の  をクリックし、EZ Tuning Wizardを起動します。
2. 次に、「OC」を選択し「Next」をクリックします。
3. 「Daily Computing」「Gaming/Media Editing」のいずれかから、PCの利用環境を選択し、「Next」をクリックします。



4. 「Box cooler (リファレンス/ストッククーラー)」「Tower cooler (大型/タワー型クーラー)」「Water cooler (液冷)」の中から、取り付けられているCPUクーラーのタイプを選択し、「Next」をクリックします。



5. 「Estimation tuning result」の内容を確認し問題がなければ「Next」→「Yes」の順にクリックし自動調整を実行します。

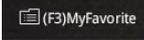
3.3 My Favorites

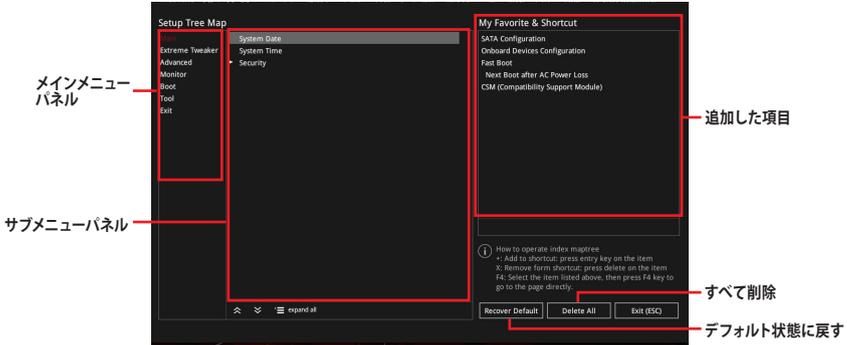
頻繁に使用する項目をお気に入りとして登録することで、画面の切り替えなどの面倒な操作をせずに一画面で各種設定を変更することができます。



お気に入り項目を追加する

手順

1. Advanced Modeでキーボードの<F3>を押すか、 をクリックし、Setup Tree Mapを開きます。
2. Setup Tree Mapでお気に入りに登録したい項目を選択します。



3. まず、メインメニューパネルでカテゴリーを選択し、次にサブメニューパネルでお気に入りに追加したい項目を選択します。お気に入りに追加したい項目で<Enter>を押すか  をクリックして項目を追加します。



次の項目はお気に入りに追加することはできません:

- ・ ユーザー管理項目(システム言語や起動デバイス優先順位など)
- ・ ユーザー設定項目(システム日付や時間など)

4. 「Exit (ESC)」をクリックするか、<ESC>を押してメインメニューに戻ります。
5. 登録した項目はメニューバー「My Favorites」から呼び出すことができます。

3.4 Main

Advanced Modeのメインメニューでは、マザーボード、CPU、メモリーの基本的な情報を表示する他に、表示言語やセキュリティの設定を行なうことができます。

Security

システムセキュリティ設定の変更が可能です。



- パスワードを忘れた場合、CMOSクリアを実行しパスワードを削除します。CMOSクリアボタンの位置は「**2.3.1 バックパネルコネクタ**」をご参照ください。
- パスワードを削除すると、画面上の「Administrator」または「User Password」にはデフォルト設定の「Not Installed」と表示されます。パスワードを再び設定すると、「Installed」と表示されます。

3.5 Extreme Tweaker

高度なシステムの調整をすることができます。



不適切な値を設定した場合、システムの誤作動や故障などの原因となる恐れがあります。設定を変更する際は十分ご注意ください。



本項目で表示される設定オプションは取り付けたCPUとメモリーにより異なります。

Ai Overclock Tuner

CPUのオーバークロックオプションを選択して、CPUのベースクロック(基本動作周波数)などを設定することができます。

- | | |
|----------|-----------------|
| [Auto] | 標準ベースクロックで動作 |
| [Manual] | ベースクロックを任意に設定可能 |

BCLK Frequency

ベースクロック (基準動作周波数) を設定します。



この項目は、取り付けたCPUの仕様に基づいて設定することをお勧めします。

Memory Frequency

メモリーの動作周波数を設定することができます。設定可能なオプションは、ベースクロック周波数の設定に応じて変化します。

TPU

難しい操作をせずにCPUやメモリーの動作周波数、電圧を自動的に調節しシステム全体のパフォーマンスを向上させます。

- [Keep Current Settings] 現在の設定を維持します。
- [TPU I] 空冷向けオーバークロック調整を実行します。
- [TPU II] 水冷向けオーバークロック調整を実行します。

3.6 Advanced

CPU、チップセット、オンボードデバイスなどの詳細設定の変更ができます。



アドバンスドメニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。設定の変更は十分にご注意ください。

3.6.1 AMD fTPM configuration

AMD CPUに統合されたTPM機能に関する設定をすることができます。

AMD CPU fTPM

AMD CPU fTPM 機能の有効/無効を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]



Firmware TPMが無効に設定されると、TPM上に保存されているすべてのデータは失われます。

3.6.2 CPU Configuration

CPUに関する設定をすることができます。



この画面に表示される項目は、取り付けられたCPUにより異なります。

PSS Support

ACPI_PPC、_PSS、_PCT オブジェクトの生成の有効/無効を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

NX Mode

No-Execute Page Protection機能の有効/無効を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

SVM Mode

AMD SVM (Security and Virtual Machine architecture) を有効にします。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

3.6.3 SATA Configuration

チップセットが制御するSerial ATAコントローラーに関する設定をすることができます。

SATA Port Enable

チップセットが制御するSerial ATAコントローラーの有効/無効を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

SATA Mode

Serial ATAコントローラーの動作モードを設定します。

- | | |
|--------|---|
| [AHCI] | SATAデバイス本来の性能を発揮させます。このモードを選択することによりホットプラグ機能とネイティブ・コマンド・キューイング (NCQ)をサポートすることができます。 |
| [RAID] | SATAデバイスでRAIDアレイを構築することができます。 |

SMART Self Test

ストレージデバイスに問題が発生した際、システム起動時のPOSTメッセージとして障害状況をモニタリングする S.M.A.R.T 情報を表示する機能の有効/無効を設定します。
設定オプション: [On] [Off]

SATA6G_1(Gray) - SATA6G_4(Gray)

SATA6G_1 - SATA6G_4

個別にSerial ATAポートの有効/無効を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Hot Plug

Serial ATAポートのホットプラグ機能の有効/無効を設定することができます。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

3.6.4 Onboard Devices Configuration

オンボードデバイスに関する設定をすることができます。

HD Audio Controller

オンボード実装されたオーディオコントローラーの有効/無効を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

RGB LED lighting

オンボード搭載されたRGB LEDの有効/無効を設定します。

When system is in working state

システム動作中のLEDの有効/無効を設定します。
設定オプション: [All On] [Stealth Mode] [Aura Only] [Aura Off]

Q-Code LED Function

Q-Code LEDの表示内容を設定することができます。
[Disabled] Q-Code LED 機能を無効にします。
[POST Code Only] POSTコードのみを表示します。
[Auto] システム起動時はPOSTコードを、起動後はCPU温度を表示します。

When system is in sleep, hibernate or soft off states

S3 (スリープ)、S4 (休止状態)、S5 (ソフトオフ) 状態のLEDの有効/無効を設定します。
設定オプション: [All On] [Stealth Mode] [Aura Only] [Aura Off]

Intel LAN Controller

Intel 製LANコントローラーの有効/無効を設定します。
設定オプション: [On] [Off]

Wi-Fi 6 (802.11ax) Controller

Wi-Fi 6 (802.11ax) コントローラーの有効/無効を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Bluetooth Controller

Bluetooth コントローラーの有効/無効を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

PCIEX16_1 Mode

PCI Express x16 スロット (PCIEX16) の動作モードを設定します。
設定オプション: [Auto] [GEN 1] [GEN 2] [GEN 3] [GEN 4]

M.2_1 Link Mode

M.2 Socket 3 第1スロットの動作モードを設定します。
設定オプション: [Auto] [GEN 1] [GEN 2] [GEN 3] [GEN 4]

M.2_2 Link Mode

M.2 Socket 3 第2スロットの動作モードを設定します。
設定オプション: [Auto] [GEN 1] [GEN 2] [GEN 3] [GEN 4]

SB Link Mode

サウスブリッジの動作モードを設定します。
設定オプション: [Auto] [GEN 1] [GEN 2] [GEN 3] [GEN 4]

3.6.5 APM Configuration

電源管理に関する設定をすることができます。

ErP Ready

ErP (Energy-related Products) の条件を満たすよう、S5状態になるとUEFI BIOSが特定の電源をオフにすることを許可します。この項目を有効に設定すると、他のすべてのPME (Power ManagementEvent) オプションは無効になります。

設定オプション: [Disabled] [Enable(S4+S5)] [Enable(S5)]

Restore On AC Power Loss

停電などによりコンピューターへの電力が突然遮断されたしまった場合、または電源ユニットからの電源供給が完全に停止した場合、再度通電した際の動作を設定します。

- | | |
|--------------|----------------|
| [Power On] | 電源オンにします。 |
| [Power Off] | 電源オフの状態を維持します。 |
| [Last State] | 電源遮断時の状態に戻します。 |

Power On By PCI-E

- | | |
|------------|---|
| [Disabled] | この機能を無効にします。 |
| [Enabled] | オンボードLANデバイスおよびPCI Expressデバイスで起動信号を受信した際のWake-On-LAN機能を有効にします。 |

Power On By RTC

- | | |
|------------|---|
| [Disabled] | RTCによるウェイクアップ機能を無効にします。 |
| [Enabled] | 「RTC Alarm Date (Days)」と「Hour/Minute/Second」がユーザー設定可能になります。 |

3.6.6 PCI Subsystem Settings

SR-IOV Support

SR-IOV SR-IOV対応PCIデバイスを取り付けている場合のSR-IOV (Single Root I/O Virtualization) 機能の有効/無効を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

3.6.7 USB Configuration

チップセットが内蔵するUSB コントローラーに関する設定をすることができます。

Legacy USB Support

- [Enabled] レガシーOS用にUSBデバイスのサポートを有効にします。
- [Disabled] USBデバイスはUEFI BIOS Utilityでのみ使用できます。
- [Auto] 起動時にUSBデバイスを検出します。USBデバイスが検出されると、USBコントローラーのレガシーモードが有効になり、検出されないレガシーUSBのサポートは無効になります。

XHCI Hand-off

xHCI/ハンドオフ機能の有効/無効を設定します。

- [Enabled] xHCI/ハンドオフ機能に対応していないOSでも問題なく動作させることができます。
- [Disabled] この機能を無効にします。

USB Single Port Control

個別にUSBポートの有効/無効を設定することができます。



USBポートの位置については、「1.1.2 マザーボードのレイアウト」をご参照ください。

3.6.8 HDD/SSD SMART Information

マザーボードに取り付けられたSATAデバイスのS.M.A.R.T.情報を表示します。

3.6.9 NVMe Configuration

NVM Express (NVMe) コントローラーとドライブの情報を表示します。

3.6.10 Network Stack Configuration

ネットワークスタックに関する設定をすることができます。

3.7 Monitor

システムの温度、電源状態、ファン回転数を確認することができます。また、この項目では取り付けられたファンの制御を行なうことができます。

Q-fan Configuration

Qfan Tuning

マザーボードに取り付けられたファンの最低回転数を計測し、各ファンの最小デューティサイクルを自動で設定します。

WATER PUMP+ Control

ウォーターポンプコネクターの制御方法を選択します。

[Disabled] 制御機能を無効にします。

[Auto] 接続されている水冷ポンプを検出し、自動的に最適な動作モードに切り替えます。

[DC mode] DC制御します。

[PWM mode] PWM制御します。

3.8 Boot

システム起動に関する設定をすることができます。

Boot Configuration

Fast Boot

起動時のシステム初期化などを省略し、すばやく起動する機能の有効/無効を設定します。
設定オプション: [Enabled] [Disabled]



次の項目は、「**Fast Boot**」を [**Enabled**] に設定することで表示されます。

Next Boot after AC Power Loss

停電などでシステムが不正終了した場合、次回の起動方法を設定します。

[Normal Boot] Fast Boot設定を解除し、通常の起動プロセスを実行します。

[Fast Boot] 不正終了後もFast Boot設定が維持されます。

Setup Mode

UEFI BIOS Utility 起動時の初期動作モードを選択します。

設定オプション: [Advanced Mode] [EZ Mode]

CSM (Compatibility Support Module)

CSM (Compatibility Support Module) のパラメータ設定です。この設定によってUEFIドライバーを持たないデバイスとの互換性を向上することが可能です。

Launch CSM

CSM (Compatibility Support Module) の有効/無効を設定します。

[Enabled] CSMを有効にし、Windows® UEFIモード、またはUEFIドライバーを持たない追加デバイスを完全にサポートし互換性を高めます。

[Disabled] Security Firmware UpdateとSecure Bootを完全にサポートするためにCSMを無効にします。



次の項目は、「**Launch CSM**」を [**Enabled**] に設定することで表示されます。

Boot Device Control

起動を許可するデバイスタイプを選択します。

設定オプション: [UEFI and Legacy OPROM] [Legacy OPROM only] [UEFI only]

Boot from Network Devices

起動に使用するネットワークデバイスの優先タイプを選択します。起動時間を短縮する場合は [**Ignore**] を選択します。

設定オプション: [Legacy only] [UEFI only] [Ignore]

Boot from Storage Devices

起動に使用するストレージデバイスの優先タイプを選択します。起動時間を短縮する場合は [**Ignore**] を選択します。

設定オプション: [Legacy only] [UEFI only] [Ignore]

Boot from PCI-E/PCI Expansion Devices

起動に使用するPCI Express / PCI 拡張デバイスの優先タイプを選択します。

設定オプション: [Legacy only] [UEFI only] [Ignored]

Secure Boot

システム起動時に許可されていないファームウェア、オペレーティングシステム、UEFIドライバー（オプションROM）が実行されないようにするWindows® Secure Bootに関する設定を行なうことができます。

Boot Option Priorities

使用可能なデバイスから、起動デバイスの起動優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスの数は、起動可能なデバイスの数に依存します。



- システム起動中に起動デバイスを選択するには、POST時に<F8>を押します。
- Windows® OSをセーフモードで起動する方法は、Microsoft®のサポート情報をご確認ください。 <http://windows.microsoft.com/ja-jp/windows/support>

Boot Override

起動デバイスを選択し起動します。画面に表示されるデバイスの項目の数は、システムに接続されたデバイスの数により異なります。項目（デバイス）を選択すると、選択したデバイスからシステムを起動します。システム起動時にキーボードの<F8>キーを押すことで、UEFI BIOS Utilityを起動することなくダイレクトに起動デバイスを選択することもできます。

3.9 Tool

ASUS独自機能の設定をします。マウスで項目を選択するか、キーボードのカーソルキーで項目を選択し、<Enter>を押して各機能を起動することができます。

Setup Animator

UEFI BIOS Utilityの画面切り替えアニメーション効果の有効/無効を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Flexkey

リセットボタンに任意の機能を割り当てることができます。
設定オプション: [Reset] [Aura On/Off] [DirectKey] [Safe Boot]

3.9.1 ASUS EZ Flash 3 Utility

UEFI BIOS更新ツール「**ASUS EZ Flash 3 Utility**」を起動します。このユーティリティはカーソルキーと<Enter>を使用して操作します。



詳細は「3.11.2 ASUS EZ Flash 3 Utility」をご参照ください。

3.9.2 Secure Erase

SSDは、従来のHDD(ハードディスク・ドライブ)とは仕組みが異なり、使用しているうちに性能が低下していきます。Secure Eraseを実行することで、SSDの性能を工場出荷時の状態に戻すことができます。

Secure Eraseを起動するには、UEFI BIOS Utilityを起動して「**Advanced Mode**」→「**Tool**」の順に進み、「**Secure Erase**」を選択します。



Secure Erase 対応SSDは、ASUSオフィシャルサイト (<http://www.asus.com/>) に掲載される Qualified Vendors List (QVL) をご確認ください。互換性のないSSDでSecure Eraseを実行した場合、動作が不安定になることがあります。



- Secure Eraseにかかる時間はSSDの容量により異なります。また、Secure Eraseの実行中はシステムの電源を切らないでください。
- Secure Erase 機能を使用すると、SSD上のデータはすべて消去されます。事前に必要なデータのバックアップを必ず行なってください。

利用可能なSSD

Port #	SSD Name	Status	Total Capacity
P2	ADATA 5566 Turbo	Frozen	64.0GB

① SSD speed performance may degrade over time due to accumulated files and frequent data-writing. Secure Erase completely clears your SSD and restores it to its factory settings.
WARNING: Ensure that you're using a compatible SSD. Running Secure Erase on an incompatible SSD will render the SSD totally unusable.
NOTE: For the list of Secure Erase compatible SSDs, visit the ASUS Support site at www.asus.com/support



状態の定義:

- Frozen** BIOSによりSSDが凍結されている状態です。Secure Erase を実行するには、SSDの凍結状態を解除するためにコンピューターのハードリセットを行なう必要があります。
- Locked** Secure Eraseでの作業が中断または停止した場合、SSDがロックされます。この状態は、ASUSによって定義されたものとは異なるパスワードを使用するサードパーティ製ソフトウェアを使用した場合に発生することがあります。Secure Erase を実行するには、サードパーティ製ソフトウェアでSSDのロック状態を解除する必要があります。

3.9.3 ASUS User profile

ASUS User profile では、設定をプロフィールとして複数作成することができます。また作成したプロフィールを読み込んで瞬時に設定を変更することが可能です。

Load Profile

保存したプロフィールから設定を読み込みます。プロフィールの番号をキーボードで入力し、<Enter>を押し「Yes」を選択します。



- 設定をロード中はシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。
- 設定をロードする場合は、保存された設定の構成時と同一のハードウェア (CPU、メモリーなど) とUEFI BIOSバージョンでの使用をお勧めします。異なったハードウェアやBIOSバージョン設定をロードすると、システム起動エラーやハードウェアが故障する可能性があります。

Profile Name

プロフィール名を入力します。設定したプロフィールが分かりやすいように、ご希望の名前を英数字で入力してください。

Save to Profile

現在の設定をプロフィールとして保存します。キーボードで1から8の数字を入力しプロフィール番号を割り当て、<Enter>を押し「Yes」を選択します。

Load/Save Profile from/to USB Drive.

USBストレージデバイスを使用して、UEFI BIOS設定のインポート/エクスポートをすることができます。

3.9.4 ASUS SPD Information

メモリスロットに設置されたメモリーモジュールのSPD (Serial Presence Detect) 情報を読み出して表示します。

3.9.5 Graphics Card Information

マザーボードに取り付けられたグラフィックスカードの情報を表示します。

GPU Post

マザーボードに取り付けられたグラフィックスカードの情報が表示されます。



この機能は対応するASUS製グラフィックスカードでのみ使用することができます。

3.9.6 ASUS Armoury Crate

Armoury Crate は、お使いのマザーボードのドライバーやユーティリティの取得やASUSの最新情報をお届けするワンストップ情報サービスツールです。

Download & Install ARMOURY CRATE app

Armoury Crateの有効/無効を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

3.10 Exit

設定の保存や取り消しのほか、デフォルト設定の読み込みを行なうことができます。

Load Optimized Defaults

すべての設定を初期設定値に戻します。<F5>を押すことで同じ動作を行なうことができます。

Save Changes & Reset

設定した変更を保存し、セットアップを終了します。再起動後、設定した値が適用されます。<F10>を押すことで同じ動作を行なうことができます。

Discard Changes & Exit

設定した変更を保存せず、セットアップを終了します。再起動後、設定は変更前の状態に戻ります。

Launch EFI Shell from USB drives

EFI Shell アプリケーション (shellx64.efiなど) を保存したUSBメモリーから、EFI Shellを起動します。

3.11 UEFI BIOSの更新

ASUS公式サイトでは、最新のBIOSイメージファイルを公開しております。UEFI BIOSを更新することで、システムの安定性や互換性、パフォーマンスが上がる場合があります。ただし、UEFI BIOSの更新にはリスクが伴います。現在のバージョンで問題がない場合は、**UEFI BIOSの更新を行わないでください**。不適切な更新は、システム起動エラーの原因となります。更新は必要な場合のみ行ない、更新の際は次の手順に従い慎重に行なってください。



最新のBIOSイメージファイルは、ASUS公式サイト (<http://www.asus.com>) からダウンロードすることができます。

本製品では、次の機能を使用してUEFI BIOSの更新と管理を行なうことができます。

1. **EZ Update:** Windows® 環境でBIOSイメージを更新することができます。
2. **ASUS EZ Flash 3 Utility:** USBメモリーを使用してUEFI BIOS UtilityからBIOSイメージを更新することができます。
3. **ASUS CrashFree BIOS 3:** BIOSイメージに破損やエラーが発生した際、サポートDVDまたはUSBメモリーを使用してBIOSイメージを復旧することができます。
4. **USB BIOS Flashback™:** CPUやメモリーの取り付けは不要で、BIOSやOSを起動することなく簡単にBIOSを更新することができます。

3.11.1 EZ Update

EZ Updateは、Windows® 環境でUEFI BIOSの更新を行なうことができるユーティリティです。オンラインでUEFI BIOSや各種ユーティリティを更新することができます。



EZ Update を使用するには、インターネット接続が必要です。

3.11.2 ASUS EZ Flash 3 Utility

ASUS EZ Flash 3 Utility は、OSベースのユーティリティを起動することなくUEFI BIOSを短時間で更新することができます。



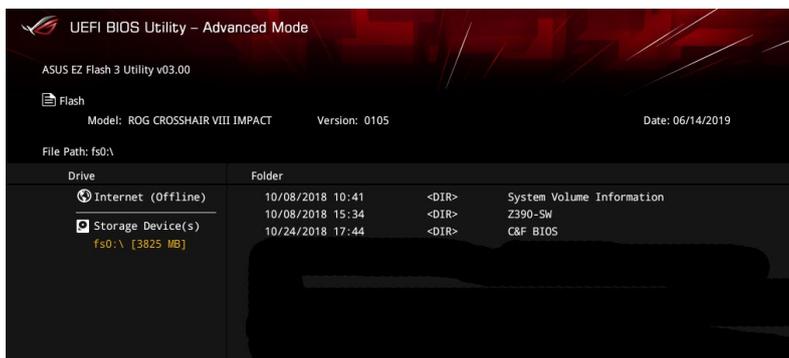
- 安全性及び信頼性を確保するため、**Load Optimized Defaults** を実行しUEFI BIOSの設定を初期設定値に戻してから更新を行なってください。
- インターネットアップデートは、国や地域によっては利用できない場合があります。ご利用可能地域であっても、お客様の回線契約内容によってはご利用いただけない場合があります。予めご了承ください。

USBメモリーを使用してUEFI BIOSを更新する手順

1. BIOSイメージファイルを保存したUSBメモリーをシステムにセットします。
2. UEFI BIOS UtilityのAdvanced Mode を起動し、Tool メニューから「**ASUS EZ Flash 3 Utility**」を起動します。
3. 「**via Storage Devices(s)**」を選択します。



4. DriveフィールドでBIOSイメージファイルが保存されているUSBメモリーを選択し<Enter>を押します。
5. Folderフィールドで更新に使用するBIOSイメージファイルを選択し<Enter>を押します。
6. 読み込まれたBIOSイメージファイルが正しいことを確認し、UEFI BIOSの更新を開始します。
7. UEFI BIOSの更新が完了したら、「OK」ボタンを押してシステムを再起動します。





- 安全性及び信頼性を確保するため、FAT32/16ファイルシステムをもつシングルパーティションのUSBメモリーをご使用ください。
- UEFI BIOSの更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。UEFI BIOSが破損、損傷しシステムを起動することができなくなる恐れがあります。UEFI BIOSの更新に伴う不具合、動作不良、破損等に関しましては保証の対象外となります。



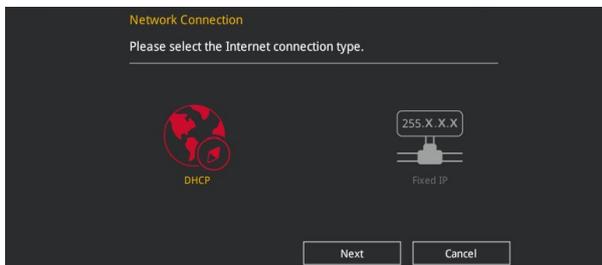
安全性及び信頼性を確保するため、UEFI BIOSの更新後はUEFI BIOS Utilityの初期設定値をロードすることをおすすめします。

インターネットを使用してUEFI BIOSを更新する手順

1. UEFI BIOS UtilityのAdvanced Modeを起動し、**Tool**メニューから「**ASUS EZ Flash 3 Utility**」を起動します。
2. 「**via Internet**」を選択します。



3. インターネット接続方法を選択します。



4. 画面に表示される指示に従い、UEFI BIOSを更新します。
5. UEFI BIOSの更新が完了したら、システムを再起動します。



安全性及び信頼性を確保するため、UEFI BIOSの更新後はUEFI BIOS Utilityの初期設定値をロードすることをおすすめします。

3.11.3 ASUS CrashFree BIOS 3

ASUS CrashFree BIOS 3 はUEFI BIOSを復旧することができるツールです。更新時などに破損したUEFI BIOSをサポートDVDまたはUSBメモリーを使用して復旧することができます。



- 最新のBIOSイメージファイルは、ASUSオフィシャルサイト (<http://www.asus.com>) からダウンロードすることができます。
- 本機能を使用する前にUSBメモリーに保存したBIOSイメージファイルの名前を「C8I.CAP」に変更してください。

UEFI BIOSを復旧する

手順

1. BIOSイメージファイルを保存したUSBメモリーまたはサポートDVDをシステムにセットします。
2. システムの電源をオンにします。
3. USBメモリーまたはサポートDVDのBIOSイメージファイルが検出されると、BIOSイメージファイルを読み込み自動的にUEFI BIOSの復旧を開始します。
4. UEFI BIOSの復旧が完了したら、UEFI BIOS UtilityでLoad Optimized Defaults を実行して設定を初期設定値に戻します。



UEFI BIOSの更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。UEFI BIOSが破損、損傷しシステムを起動することができなくなる恐れがあります。UEFI BIOSの更新に伴う不具合、動作不良、破損等に関しましては保証の対象外となります。

RAID

4

4.1 RAID設定

本製品は、RAID (Redundant Array of Inexpensive Disks) レベル0、1、10をサポートしています。



RAIDアレイに組み込まれたストレージデバイスにWindows® OSをインストールする場合は、RAIDドライバディスクを作成し、OSのインストール時にRAIDドライバを読み込ませる必要がある場合があります。

4.1.1 RAID定義

Volume (JBOD):

複数のハードディスクを論理的に連結し単一のディスクのように扱うことができます。JBODでは、冗長機能や修復機能などが備わっていないディスクに障害が発生した場合、データは失われます。

RAIDABLE (またはRAID Ready):

システムのインストール後も、ストレージスペースを追加したり、冗長アレイを構成することを可能にする特別なタイプのボリューム (JBOD) です。RAIDableアレイは、Option ROM、UEFI、またはrcadmを使用して作成されます。



RAIDABLE アレイを作成する機能は、システムごとに異なる場合があります。

RAID 0 (データストライピング):

SATAストレージデバイスに対し平行方式でデータを読み/書きします。それぞれのSATAストレージデバイスの役割はシングルドライブと同じですが、転送率はアレイに参加している台数倍に上り、データへのアクセス速度を向上させます。セットアップには、最低2台のSATAストレージデバイス (同じモデル、同容量) が必要です。

RAID 1 (データミラーリング):

1台目のドライブから、2台目のドライブに、同じデータイメージをコピーし保存します。ドライブが1台破損しても、ディスクアレイ管理ソフトウェアが、アプリケーションを正常なドライブに移動することによって、完全なコピーとして残ります。システム全体のデータプロテクションとフォールト・トレランスを向上させます。セットアップには、最低2台の新しいSATAストレージデバイス、または、既存のドライブと新しいドライブが必要です。既存のドライブを使う場合、新しいドライブは既存のものと同じサイズかそれ以上である必要があります。

RAID 10 (ミラーリング + ストライピング):

データストライピングとデータミラーリングをパリティ (冗長データ) なしで結合したものです。RAID 0とRAID 1構成のすべての利点が得られます。セットアップには、最低4台のSATAストレージデバイスが必要です。

付録

Q-Code 表

コード	説明
00	未使用
01	電源ON リセットタイプ検出 (ソフト/ハード)
02	マイクロコードローディング前のAP 初期化
03	マイクロコードローディング前のシステムエージェント 初期化
04	マイクロコードローディング前のPCH 初期化
06	マイクロコードローディング
07	マイクロコードローディング後のAP 初期化
08	マイクロコードローディング後のシステムエージェント初期化
09	マイクロコードローディング後のチップセット初期化
0B	キャッシュ初期化
0C-0D	AMI SEC エラーコード用に予約
0E	マイクロコード未検出
0F	マイクロコード未ロード
10	PEI Core III
11 – 14	プリメモリーCPU 初期化を開始
15 – 18	プリメモリーシステムエージェント初期化を開始
19 – 1C	プリメモリーPCH 初期化を開始
2B – 2F	メモリー初期化
30	ASL用に予約 (ACPI/ASL ステータス コードをご参照ください)
31	メモリー装着済み
32 – 36	CPUポストメモリー初期化
37 – 3A	ポストメモリーシステムエージェント初期化を開始
3B – 3E	ポストメモリーPCH 初期化を開始
4F	DXE IPLを開始
50 – 53	メモリー初期化エラー 無効なメモリータイプ、または互換性のないメモリースピード
54	不特定なメモリー初期化エラー
55	メモリー未装着
56	無効なCPUタイプ、またはスピード
57	CPU不適合
58	CPUセルフテスト失敗、またはCPUキャッシュエラーの可能性あり
59	CPUマイクロコードが見つからない、またはマイクロコードの更新に失敗
5A	インターナルCPUエラー
5B	リセットPPI無効
5C – 5F	AMI エラーコード用に予約

Q-Code表

コード	説明
E0	S3 レジュームを開始 (DXE IPLによってS3 レジュームPPI実行)
E1	S3 ブートスクリプト実行
E2	ビデオリポスト
E3	OS S3 ウェイクベクターコール
E4 – E7	AMI プログレスコード用に予約
E8	S3 レジュームに失敗
E9	S3 レジュームPPIが見つからない
EA	S3 レジュームブートスクリプトエラー
EB	S3 OS ウェイクエラー
EC – EF	AMI エラー コード用に予約
F0	ファームウェアによりリカバリー状態を決定 (Auto リカバリー)
F1	ユーザーによりリカバリー 状態を決定 (Forced リカバリー)
F2	リカバリープロセス開始
F3	リカバリーファームウェアイメージが見つかりました
F4	リカバリー ファームウェアイメージをロード済み
F5 – F7	AMI プログレスコード用に予約
F8	リカバリー PPI無効
F9	リカバリー カプセルが見つからない
FA	無効なリカバリー カプセル
FB – FF	AMI エラー コード用に予約
60	DXE Coreを開始
61	NVRAM 初期化
62	PCH Runtime Servicesのインストール
63 – 67	CPU DXE 初期化開始
68	PCI ホストブリッジ初期化
69	システムエージェントDXE 初期化開始
6A	システムエージェントDXE SMM 初期化開始
6B – 6F	システムエージェントDXE 初期化(システムエージェント モジュール用)
70	PCH DXE 初期化開始
71	PCH DXE SMM 初期化開始
72	PCH デバイス初期化
73 – 77	PCH DXE 初期化 (PCH モジュール用)
78	ACPI モジュール初期化
79	CSM 初期化
7A – 7F	AMI DXE コードに予約

Q-Code表

コード	説明
90	Boot Device Selection (BDS)フェーズ開始
91	ドライバー接続開始
92	PCIバス初期化開始
93	PCIバスホットプラグコントローラー初期化
94	PCIバス一覧
95	PCIバスリクエストリソース
96	PCIバス割り当てリソース
97	コンソール出力デバイス接続
98	コンソール入力デバイス接続
99	スーパーIO 初期化
9A	USB 初期化開始
9B	USB リセット
9C	USB 検出
9D	USB 有効
9E – 9F	AMI コード用に予約
A0	IDE 初期化開始
A1	IDE リセット
A2	IDE 検出
A3	IDE 有効
A4	SCSI 初期化開始
A5	SCSI リセット
A6	SCSI 検出
A7	SCSI 有効
A8	パスワード認証のセットアップ
A9	セットアップの開始
AA	ASL用に予約 (ACPI/ASL ステータスコードをご参照ください)
AB	セットアップ入力待ち
AC	ASL用に予約 (ACPI/ASL ステータスコードをご参照ください)
AD	ブートイベント準備完了
AE	レガシーブートイベント
AF	ブートサービスイベント終了
B0	ランタイムセットバーチャルアドレスマップ開始
B1	ランタイムセットバーチャルアドレスマップ終了
B2	レガシーオプション ROM 初期化
B3	システムリセット

Q-Code表

コード	説明
B4	USB ホットプラグ
B5	PCI バスホットプラグ
B6	NVRAM クリーンアップ
B7	設定リセット(NVRAM設定リセット)
B8- BF	AMI コード用に予約
D0	CPU 初期化 エラー
D1	システムエージェント 初期化 エラー
D2	PCH 初期化 エラー
D3	特定のアーキテクチャプロトコルが使用できない
D4	PCI リソース割当エラー リソースがない
D5	レガシーオプションROM用スペースがない
D6	コンソール出力デバイスが見つからない
D7	コンソール入力デバイスが見つからない
D8	無効なパスワード
D9	エラーローディングブートオプション(ローディングイメージリターンエラー)
DA	ブートオプション失敗(スタートイメージリターンエラー)
DB	Flashアップデート失敗
DC	リセットプロトコルが使用できない

ACPI/ASL チェックポイント

ステータスコード	説明
0x01	システムが S1 スリープ状態に移行中
0x02	システムが S2 スリープ状態に移行中
0x03	システムが S3 スリープ状態に移行中
0x04	システムが S4 スリープ状態に移行中
0x05	システムが S5 スリープ状態に移行中
0x10	システムが S1 スリープ状態から起動中
0x20	システムが S2 スリープ状態から起動中
0x30	システムが S3 スリープ状態から起動中
0x40	システムが S4 スリープ状態から起動中
0xAC	システムが ACPI モードに遷移した。割り込みコントローラが PIC モードになっている。
0xAA	システムが ACPI モードに遷移した。割り込みコントローラが APIC モードになっている。

Notices

FCC Compliance Information

Responsible Party: Asus Computer International

Address: 48720 Kato Rd., Fremont, CA 94538, USA

Phone / Fax No: (510)739-3777 / (510)608-4555

Identification of the assembled product: INTEL® WI-FI 6 AX200

Identification of the modular components used in the assembly:

Model Name: INTEL® WI-FI 6 AX200 FCC ID: PD9AX200NG

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

RF exposure warning

This equipment must be installed and operated in accordance with provided instructions and the antenna(s) used for this transmitter must be installed to provide a separation distance of at least 20 cm from all persons and must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter. End-users and installers must be provided with antenna installation instructions and transmitter operating conditions for satisfying RF exposure compliance.

Compliance Statement of Innovation, Science and Economic Development Canada (ISED)

This device complies with Innovation, Science and Economic Development Canada licence exempt RSS standard(s). Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

Operation in the band 5150–5250 MHz is only for indoor use to reduce the potential for harmful interference to co-channel mobile satellite systems.

CAN ICES-3(B)/NMB-3(B)

Déclaration de conformité de Innovation, Sciences et Développement économique Canada (ISED)

Le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes : (1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et (2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

La bande 5150–5250 MHz est réservée uniquement pour une utilisation à l'intérieur afin de réduire les risques de brouillage préjudiciable aux systèmes de satellites mobiles utilisant les mêmes canaux.

CAN ICES-3(B)/NMB-3(B)

VCCI: Japan Compliance Statement

Class B ITE

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

KC: Korea Warning Statement

B급 기기 (가정용 방송통신기자재)

이 기기는 가정용(B급) 전자파적합기기로서 주로 가정에서 사용하는 것을 목적으로 하며, 모든 지역에서 사용할 수 있습니다.

*당해 무선설비는 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다.

REACH

Complying with the REACH (Registration, Evaluation, Authorisation, and Restriction of Chemicals) regulatory framework, we published the chemical substances in our products at ASUS REACH website at <http://csr.asus.com/english/REACH.htm>.



DO NOT throw the motherboard in municipal waste. This product has been designed to enable proper reuse of parts and recycling. This symbol of the crossed out wheeled bin indicates that the product (electrical and electronic equipment) should not be placed in municipal waste. Check local regulations for disposal of electronic products.



DO NOT throw the mercury-containing button cell battery in municipal waste. This symbol of the crossed out wheeled bin indicates that the battery should not be placed in municipal waste.

ASUS Recycling/Takeback Services

ASUS recycling and takeback programs come from our commitment to the highest standards for protecting our environment. We believe in providing solutions for you to be able to responsibly recycle our products, batteries, other components as well as the packaging materials. Please go to <http://csr.asus.com/english/Takeback.htm> for detailed recycling information in different regions.

Regional notice for California



WARNING

Cancer and Reproductive Harm -
www.P65Warnings.ca.gov

Google™ License Terms

Copyright© 2019 Google Inc. All Rights Reserved.

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at:

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.

See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

NCC: Taiwan Wireless Statement

經型式認證合格之低功率射頻電機，非經許可，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。前項合法通信，指依電信法規定作業之無線電通信。低功率射頻電機須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

應避免影響附近雷達系統之操作。

Japan RF Equipment Statement

屋外での使用について

本製品は、5GHz帯域での通信に対応しています。電波法の定めにより5.2GHz、5.3GHz帯域の電波は屋外で使用が禁じられています。

法律および規制遵守

本製品は電波法及びこれに基づく命令の定めるところに従い使用してください。日本国外では、その国の法律または規制により、本製品の使用ができないことがあります。このような国では、本製品を運用した結果、罰せられることがあります。当社は一切責任を負いかねますのでご了承ください。

Précautions d'emploi de l'appareil :

- a. Soyez particulièrement vigilant quant à votre sécurité lors de l'utilisation de cet appareil dans certains lieux (les avions, les aéroports, les hôpitaux, les stations-service et les garages professionnels).
- b. Évitez d'utiliser cet appareil à proximité de dispositifs médicaux implantés. Si vous portez un implant électronique (stimulateurs cardiaques, pompes à insuline, neurostimulateurs...), veuillez impérativement respecter une distance minimale de 15 centimètres entre cet appareil et l'implant pour réduire les risques d'interférence.
- c. Utilisez cet appareil dans de bonnes conditions de réception pour minimiser le niveau de rayonnement. Ce n'est pas toujours le cas dans certaines zones ou situations, notamment dans les parkings souterrains, dans les ascenseurs, en train ou en voiture ou tout simplement dans un secteur mal couvert par le réseau.
- d. Tenez cet appareil à distance du ventre des femmes enceintes et du bas-ventre des adolescents.

Supraprastinta ES atitikties deklaracija

Šiame dokumente bendrovė „ASUSTek Computer Inc.“ pareiškia, kad šis prietaisas atitinka pagrindinius reikalavimus ir kitas susijusias Direktyvos 2014/53/ES nuostatas. Visas ES atitikties deklaracijos tekstas pateikiamas čia: <https://www.asus.com/support/>

Toliau nurodytose šalyse „WiFi“ ryšiu, veikiančiu 5 150-5 350 MHz dažniu juostoje, galima naudotis tik paltalpoje:

Ovaj uredaj može da se koristi u državama navedenim ispod:

Förenklad EU-samsvarserklæring

ASUSTek Computer Inc. erklærer herved at denne enheten er i samsvar med hovedsaklige krav og andre relevante forskrifter i direktivet 2014/53/EU. Fullstendig tekst for EU-samsvarserklæring finnes på: <https://www.asus.com/support/>

Wi-Fi-området 5150–5350 MHz skal begrenses til innendørs bruk for landene som er oppført i tabellen:

Uproszczona deklaracja zgodności UE

Firma ASUSTek Computer Inc. niniejszym oświadcza, że urządzenie to jest zgodne z zasadniczymi wymogami i innymi właściwymi postanowieniami dyrektywy 2014/53/EU. Pełny tekst deklaracji zgodności UE jest dostępny pod adresem <https://www.asus.com/support/>

W krajach wymienionych w tabeli działanie sieci Wi-Fi w paśmie 5150–5350 MHz powinno być ograniczone wyłącznie do pomieszczeń:

Declaração de Conformidade Simplificada da UE

A ASUSTek Computer Inc. declara que este dispositivo está em conformidade com os requisitos essenciais e outras disposições relevantes da Diretiva 2014/53/EU. O texto integral da declaração de conformidade da UE está disponível em <https://www.asus.com/support/>

A utilização das frequências WiFi de 5150 a 5350MHz está restrita a ambientes interiores nos países apresentados na tabela.

Declarație de conformitate UE, versiune simplificată

Prin prezenta, ASUSTek Computer Inc. declară că acest dispozitiv este în conformitate cu reglementările esențiale și cu celelalte prevederi relevante ale Directivei 2014/53/UE. Textul complet al declarației de conformitate UE este disponibil la adresa <https://www.asus.com/support/>

Pentru țările listate în tabelul de mai jos, rețelele WiFi care funcționează în banda de frecvență de 5.150-5.350 MHz trebuie utilizate doar în interior:

Pojednostavljena Deklaracija o usaglašenosti EU

ASUSTek Computer Inc. ovim izjavljuje da je ovaj uređaj usaglašen sa osnovnim zahtevima i drugim relevantnim odredbama Direktive 2014/53/EU. Ceo tekst Deklaracije o usaglašenosti EU dostupan je na lokaciji <https://www.asus.com/support/>

WiFi koji radi u frekventnom opsegu od 5150 MHz do 5350 MHz ograničen je isključivo na upotrebu u zatvorenom prostoru za zemlje navedene u tabeli ispod:

Zjednodušené vyhlásenie o zhode platné pre EÚ

Spoločnosť ASUSTek Computer Inc. týmto vyhlasuje, že toto zariadenie je v súlade so základnými požiadavkami a ďalšími príslušnými ustanoveniami smernice č. 2014/53/EÚ. Plné znenie vyhlásenia o zhode pre EÚ je k dispozícii na lokalite <https://www.asus.com/support/>

Činnosť WiFi v pásme 5150 - 5350 MHz bude obmedzená na použitie vo vnútornom prostredí pre krajiny uvedené v tabuľke nižšie:

Poenostavljena izjava EU o skladnosti

ASUSTek Computer Inc. tukaj izjavlja, da je ta naprava skladna s temeljnimi zahtevami in drugimi relevantnimi določili Direktive 2014/53/EU. Polno besedilo izjave EU o skladnosti je na voljo na <https://www.asus.com/support/>

WiFi, ki deluje v pasovnem območju 5150–5350 MHz, mora biti v državah, navedenih v spodnjem seznamu, omejen na notranjo uporabo:

Declaración de conformidad simplificada para la UE

Por la presente, ASUSTek Computer Inc. declara que este dispositivo cumple los requisitos básicos y otras disposiciones pertinentes de la directiva 2014/53/UE. En <https://www.asus.com/support/> está disponible el texto completo de la declaración de conformidad para la UE.

La conexión WiFi con una frecuencia de funcionamiento de 5150-5350 MHz se restringirá al uso en interiores para los países enumerados en la tabla:

Förenklad EU-försäkran om överensstämmelse

ASUSTek Computer Inc. deklarerar härmed att denna enhet överensstämmer med de grundläggande kraven och andra relevanta bestämmelser i direktiv 2014/53/EU. Fullständig text av EU-försäkran om överensstämmelse finns på <https://www.asus.com/support/>

WiFi som användes 5150-5350 MHz kommer att begränsas för användning inomhus i de länder som anges i tabellen:

ประกาศเกี่ยวกับความสอดคล้องของสภาพยุโรปแบบย่อ

ASUSTek Computer Inc.

ขอประกาศในที่นี้ว่าอุปกรณ์นี้มีความสอดคล้องกับความต้องการที่เป็นและเงื่อนไขที่เกี่ยวข้องอื่น ๆ ของกฎหมายผลิตภัณฑ์ข้อกำหนด 2014/53/EU เรือหาที่สมบูรณ์ของประกาศความสอดคล้องกับ EU มีอยู่ที่ <https://www.asus.com/support/>

การทำงานของ WiFi ที่ 5150-5350MHz

ถูกจำกัดให้ใช้ในอาคารสำหรับประเภทที่แสดงในตาราง

Basitleştirilmiş AB Uyumluluk Bildirimi

ASUSTek Computer Inc. bu aygıtın 2014/53/EU Yönergesinin temel gereksinimlerine ve diğer ilgili hükümlerine uygun olduğunu bildirir. AB uygunluk bildiriminin tam metni şu adreste bulunabilir: <https://www.asus.com/support/>

5150-5350 MHz aralındaki WiFi çalışması, tabloda listelenen ülkeler için iç mekân kullanımıyla kısıtlanacaktır.

Спрошена декларация про відповідність нормам ЄС

ASUSTek Computer Inc. заявляє, що цей пристрій відповідає основним вимогам та іншим відповідним вимогам Директиви 2014 / 53 / EU. Повний текст декларації відповідності нормам ЄС доступний на <https://www.asus.com/support/>

Робота Wi-Fi на частоті 5150-5350 МГц обмежується використанням у приміщенні для країн, поданих у таблиці нижче:

日本語 本製品は、欧州 (EU) 無線機器指令 (2014/53/EU) に適合しています。適合宣言書は、www.asus.com/support でご確認ください。本製品は、以下に示す国や地域で使用することができます。



AT	BE	BG	CZ	DK	EE	FR
DE	IS	IE	IT	EL	ES	CY
LV	LI	LT	LU	HU	MT	NL
NO	PL	PT	RO	SI	SK	TR
FI	SE	CH	UK	HR		

INTEL® Wi-Fi 6 AX200 output power table:

Function	Frequency	Maximum Output Power (EIRP)
WiFi	2412 - 2472 MHz	18.60 dBm
	5150 - 5350 MHz	19.02 dBm
	5470 - 5725 MHz	18.34 dBm
Bluetooth	5725 - 5850 MHz	9.13 dBm
	2402 - 2480 MHz	11.45 dBm

For the standard EN 300 440 V2.1.1, if this device operates in 5725-5875 MHz, it will be considered as a receiver category 2.

ASUS Wi-Fi Card
Contains: Wi-Fi 6 module with Bluetooth 5
Model: Intel® Wi-Fi 6 AX200
R-C-INT-AX200NGW
003-190022
S15C150002
Intel® Wi-Fi 6 AX200
DBO2941
FC
TRA
RoHS
RECYCLED CONTENT

ASUSコンタクトインフォメーション

ASUSTeK COMPUTER INC.

住所: 4F, No. 150, Li-Te Road., Peitou, Taipei 112, Taiwan
電話(代表): +886-2-2894-3447
ファックス(代表): +886-2-2890-7798
電子メール(代表): info@asus.com.tw
Webサイト: www.asus.com

テクニカルサポート

電話: +86-21-3842-9911
ファックス: +86-21-5866-8722, ext. 9101#
オンラインサポート: <https://www.asus.com/support/>

お問い合わせ

本製品の日本におけるサポートは販売代理店が提供しております。製品ご購入後のお問い合わせについては、製品の外箱に貼付された「製品保証シール」をご確認の上、販売代理店のお問い合わせ窓口へお問い合わせください。

お電話でテクニカルサポートにお問い合わせをいただく際、ご不明な点や問題を迅速に解決するため【製品名】【シリアル番号】のご用意をお願いいたします。

ASUSが提供するサービスについてのお問い合わせは、ASUSオフィシャルページのサポートページからお問い合わせください。

<https://www.asus.com/jp/support/>

